

作者名：新條
にいな
niinashinjou@gmail.com

あしたのモニカ
人間になった飼い犬女子とラブライド結婚生活する百合音声
台本

1・モニカとの再会

ある真夏の夜。二十時ごろ。主人公の自宅。

主人公、ベッドの上に寝かされている。

主人公は帰宅途中、過労により、道で倒れてしまった。

そこをモニカに発見され、彼女によって自宅に運び込まれたのである。

モニカ、目を覚まさない主人公を、心配そうに、じつ……。と見つめている。と、そこでようやく主人公が起きる。

SE1：主人公の部屋の環境音 【トラック中ずっと、耳をすませば聞こえる程度の、「ぐく小さな音で流す】

SE2：主人公が目覚め、ゆっくりベッドで動く音 【すべて流す】

【とても嬉しい。ホッとしている】

あ……！ 起きた……！

ああ。良かつたわ！ やつと目を覚ましてくれたわね。

【とても心配して】

大丈夫？ どこか痛いところはない？ 頭は打たなかつた？

あなたってば、あそこの道で気を失つて倒れていたのよ。

どう考えても過労ね？ 働きすぎね？ 頑張りすぎなのよね！ あなた。

でもね安心なさい！

スマホもお財布も鍵も、ちゃんとここにあるから。

【得意げに】

フフフ私優秀でしょう。いい犬を飼えて幸せね！ あなた】

主人公、目を覚ましたはいいが、何が起きているのかよくわからない。

主人公、今の話で、自分が道で倒れたらしいことは理解できた。

しかし、自分を助けてくれたらしいこの少女は、全く見知らぬ他人。

主人公『助けてくれたのは嬉しいけど……。この子、誰？』と思い、ポカンとしている。

しかも彼女は、さつきから妙なことも言っている。

SE3：主人公がベッドから起き上がる音 【0～4秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「あの……」

「うん?」

〈主人公〉

「あなたが助けて、ここまで運んでくれたの?」

【説明不足だつたことに気づく】
あ。

ええ! そうよ。

私があなたを見つけて、あなたの家まで運んだの。

【得意げに】

でも、こんなのは当然の勤めよ! 私はあなたの犬なんだから。
あなたに何かあった時。

駆け付けるのは自然な事だわ!」

SE4..モニカが「そぞそと主人公の方へ近づく音【0~3秒ほどまで流す】

【ホソとしてため息をつく】

はあ……本当に無事でよかったです。

あのまま外で眠つたままだつたら、色々危なかつたわよ。

急いで来てみて本当によかつた! やつぱり夢で見た通りだつたわ。

【心配そうに】

ねえ。見た感じ、特にケガはしていないようだけど……。調子はどう? 一応病院に行く?
あなたが寝てる間に、夜間やつてるとこ探しておいたから。
なんだつたらタクシー呼んで……」

〈主人公〉

「身体は、おかげさまで大丈夫。それより、もつと大事な事が……」

SE5..モニカがさらりと「そぞそと主人公の方へ近づく音【SE4と同じ音。10~13秒ほどまで流す。モニカが主人公を心配していることを表現するために、SE4よりもボリュームを大きくする】

「え? もつと大事な事?」

【真っ青になる。『そんなに悪いところが……』と、ガーンとショックを受ける】
『どうしたの……? そんなに痛いところがあるの……?』
【慌てる】

ああ、やっぱり救急車呼びましょう！

あなたにもし何かあつたら。私、私……」

〈主人公〉

「いやいや、そうじやなくて。

私が知りたいのは、あなたの事。

助けていただいて、申し訳ないんだけど……あなた、どちら様？」

【ポカンとする】

へ？ あ、私？

【ホッとする。『なんだー具合が悪いわけじゃないのね！』と思う】

もう！ モニカよー！ あなたんちで飼つてる犬よ！

見ればわか……

【『わかりっこないわ！』と気づく】

わかる訳なかつたわね！ 「ごめんなさい！」

しばし沈黙。

やがてモニカが、おずおずと切り出す。

「あのね。信じてもらえるかはわからないんだけど……。
私はモニカよ。

あなたが。実家に預けてる黒のパグ。

昨日までは。普通にパグとして暮らしてたんだけど……。

【言いつらそうに】

昨晚、あなたが、その。よくない目にあう夢を見て。
それを何とか阻止するために。

【自分を人間にしてくれた相手が、人間かどうか怪しいので疑問形になる】

とある……人？ に頼んで人間にしてもらつたの。

それで。大慌てであなたの家まで向かつた。

その途中であなたが倒れていたつて訳！」

しばし沈黙。

主人公、ポカンとしている。

【自分でも『』の話、怪しすぎるわ……』と思つてゐる】

……うん。我ながら。とても信じてもひょそうにない話をしてゐるひつてわかるわ……。
で、でもね！ 証拠だつてあるのよ】

SE6：モニカが首輪の皮部分に触る音 【0～3秒ほどまで流す。2～3秒目の『トント
ン』という音で止める】

「ほら見てこれ！ あなたが昔買つてくれた首輪！
人の首に巻いてもおしゃれじゃない？」

そもそも。何で私があなたの家にすんなり入れたと思つ？】

SE7：モニカが主人公のかばんを取る『ゞそ』という音 【0～5秒ほどまで流す】

「鍵はいつも！ 鞄のここに入れるつて知つてたからよー！
ほ、他にもね！ あなたの事なら何でも知つてるわ！
あ、あなたがすぐ忙しくなつて。
実家を離れざるをえなくなるまでの事だけ……」

しばし沈黙。

主人公、まだポカンとしている。

だが、この話は信じてもいいのかもしれないと思つてゐる。

それに、たとえ嘘でも、彼女が自分を助けてくれたことには変わりない。

一方モニカ『やつぱり信じてもらえないのかしら……？』とシュンとしている。

【明るく。だが、内心しゅんとしている】

……でもね。別に信じてくれなくともいいのよ！
私の目的は。

何やら今日、危ない目にあうらしいあなたを助けて。
家まで送り届ける事だから。

それも済んだ事だし！

身体の調子もよさそなうなら、私は退散するわ！
【明らかに落ち込んでいる】

じやあね……】

SE8：モニカが立ち上がる音 【すべて流す】

SE9 …モニカがとぼとぼと歩き出す音 【ボリューム小さめに、0～3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「ま、待って！」

モニカ、その言葉を聞いて『ピタ～』と止まる。そして、すぐにベッド脇まで戻つてくる。

SE10 …モニカが勢いよく近づいてくる音 【SE9と同じ音。4～6秒の音を使用し、かなり早めにスピードを変更して、コミカルな印象にする】

「【すぐ】く期待している【
えつ……】もしかしてわかつたの【 わかつちやつたの【
私が本当にモニカだつて！
さすがあなたね！】

〈主人公〉

「というわけでもないんだけど……」

「【すぐ】くがっかりしている【
ええーっ】 どうちょー！」

SE11 …主人公がベッドの上を動き、モニカに近寄る音 【SE7と同じ音。7～10秒ほどまでを流す】

〈主人公〉

「正直、信じられない話すぎて、ついていけないところはある……。
だけどどのみち、あなたが来てくれなかつたら私は危なかつた。
それに、やっぱりその首輪は本物だと思うし……。」

「【信じてもらえる根拠はこれしかない！】」と思つていてる】

そ、そよう！

犬であろうと人間になろうと。

この首輪がこおんなに似合うのは私だけよつ！
だつて私、これが一番の宝物なんだもの！

捨て犬だった私が、あなたのうちの子になれた証なんだもの！」

〈主人公〉

「……その話を知っているのは、私とモニカだけだよね。

私もあなたはモニカだと思う。

モニカ、疑つてごめんね。

うちからこままでぐく遠いのに、私のために、頑張つて来てくれたんだね。

ありがとう

【嬉しくてたまらない】

信じてくれるの……

やつぱりあなたは最高ね。私、絶対こうなるつてわかつていたわ！」

〈主人公〉

「……でも、途中ちょっとダメそだなって思つてなかつた？」

不安にさせてごめんね」

「……ん、まあ、多少ではなく不安もあつたけど。

【気を取り直して元気になる】

済んだ事はもういいわ！

じやあ信じてくれたなら、早速なんだけど。

今日から私。ここに住んであなたのお世話をさせてもらひや！

激務、将来の不安に苦しむあなたを。

パグ犬（けん）からスーパー美少女に変身した私が守つてあげる！

【得意げに】

フフフ、覚悟なさいね。

これからあなたの人生、いい事しか起きないわよ！」

〈主人公〉

「それは頼もしい！　ぜひ守つていただきたい！」

「あ、そうだ！　後でお父さんとお母さんに

『モニカが脱走してうちまで来ちやつたので、こいつで飼います』

つて連絡してね！」

でないと私。失踪した事になつちやうわ。

で、まずは何をしましようか。

【『とりあえずお茶でも飲む？』と聞きかけて、主人公の容体に気づく】

とりあえずお茶でも飲……」

主人公、話が一段落して落ち着いたせいか、急に気分が悪くなる。
これまで身体を半分起こして話を聞いていたが、フラリと枕の上に頭を置く形で倒れる。

〈主人公〉

「そうだね……。お茶も飲みたいけど……。

やつぱりまだ気分が悪いから、病院に付き添つてもらおうかな……」

SE12 ..主人公がベッドに、ゆっくり『ドサ』と倒れる音 **【すべて流す】**

【真っ青になつて】
キャラ 大丈夫 すぐ病院！ すぐ病院に行きましょう！

わー！」

しばらく環境音のみで、フェードアウトする。

SEなし・整音のみ。整音完了時点での完成

【明るく得意げに。心底嬉しそうに】

私の名前はモニカ！

あなたが昔、助けてくれた犬よ。

こうやって、人間になれたからには。

あなたの事、バリバリお世話しちゃうんだから！

【ひときわ得意げに】

だから私の事。お嫁さんだ、って思っててくれていいのよ！

【嬉しくてたまらない】

フフフ。今日からよろしくね！
だーいすきー！」

3・衝撃の事実！　えつちしないと、人間でいられない。』

1から数日後。夜二十一時ごろ。モニカの自室。

モニカ、主人公に自室を与えられ、さつそく住める状態にすべく、荷物を整理している。いかんせん急な事なので、与えられたのは主人公のおさがりばかりだが、それでもモニカは有頂天。嬉しさのあまり、片づけながら独り言をしゃべっている。

主人公は別の部屋にいる。

SE1：部屋の環境音　【トラック1のSE1と同じ音。トラック終了まで「」く小さな音で流す】

SE2：『ガサゴソ』と、モニカが荷物を整理する音　【トラック1のSE7と同じ音。0～36秒ほどまでを、若干大きめのボリュームで流す】

【鼻歌を歌いながら荷物を整理している】

ふん、ふん、ふーん♪

【※マ】クまで明るく、わざと説明口調で話す】

こうしてパグ犬（けん）のモニカは。

大好きなあの人と、ついに人間として同棲生活を送る事になったのだわ！　※
はあ。お父さんとお母さんに深く追及されなくてよかつたわ。

『無事かどうか写真送つて』とか言われたらどうしようと思つたけど。
まあ、基本的に適當なよねうちの人達つて。

【『あの人』は主人公の事】

それからあの人を悩ませてた仕事相手の人も。

最近はすっかりおとなしくなつたようだし。

これで仕事も少しは楽になるわね。

早速私のアルバイト先も決まつたし。何だか順調すぎて怖い位だわ！

【やる気満々で】

明日から念願のお花屋さんよ！　頑張るわー！

【少し間を置いて】

それにしても、あの不思議なお姉さんの紹介とはいえ。

『犬です』って正直に言つても雇つてもらえるなんて。

あの店つていうか、この街自体どうなつてるのかしら。

まさか『犬ならあんまり珍しくないですね』って言われるとは思わなかつたわ。

【『ハツ・』と思ひ至る】

もしかしたら私が知らないだけで、この辺には人間じやないものがいっぱい住んでるのかしら。

……いつかそんなお友達が、普通にできちゃつたり？

【想像するだけで、ちょっと楽しくなつてぐる】

幽霊とか……人魚とか……宇宙人……とか？

【そんなのありえないと笑い飛ばす】

フフフ！ まさかね！

そんなの『人外娘（じんがいむすめ）が大渋滞！』だわ！』

そこで電話がかかつてくる。

モニカ、人間になれたといえど、電話はまだ慣れないでの、内心かなりビックリしている。

SE3..電話の着信音 【0—3秒ほどまで流す。2コール分。その後、ボリュームを落として、SE5までセリフの邪魔にならないように重ねて流す】

【内心かなりビックリしている】

おっと！ 電話だわ。

【冷静なふりを装い、ドヤつてている】

でも私は慌てたりしないの。もう人間だからね……』

モニカ、スマホの表示から、相手の名前を確認する。それは先ほど話題に出た『あのお姉さん』であつた。

『あのお姉さん』は、モニカを人間にした張本人。

とある大学で『人ならざるもの的生活をサポートする』という、謎の研究をしている人である。

モニカは彼女に、犬から人間にしてもらう代わりに、定期的に大学へ行つて検査やテストを受け、そのデータを提供するという契約で人間にしてもらつてている。なので彼女と話す時は、かなり緊張する。

SE4..モニカがスマホを手に取る音 【すべて流す。ボリュームは小さめにする】

SE5..モニカがスマホを操作する『ピッ』という音 【すべて流す。『ピッ』と1回】

〈電話の相手〉

「もしもし？ 私だけど。

今時間大丈夫？ 検査の結果が出たわ』

【主人口を相手にする時よりかしこまつてている】

「ここにちは！ はい！ モニカです！ 大丈夫です！

検査の結果はどうでした?」

〈電話の相手〉

「残念だけど、貴方の身体が完全に人間になつていない事が発覚したわ。
こちらでも対……」

【真っ青になる。『こちらでも』から先の事は全く聞いていない】
えい、 そんなの聞いてないです!」

電話の相手、モニカが話を聞かないで呆れている。

電話の相手、予定では

『こちらでも対処するけど、当分は次の事に気を付けてほしい』
『とりあえず応急処置として、明日にでも大学に来てほしい』
と説明するつもりだった。

が、ここはあえてそれを話さず、少し意地悪してやろうか……。という気分になつてくる。

〈電話の相手〉

「……そんなの当たり前でしよう。

貴方、あの日、話を聞く前に飛び出して行つたんだから」

「うぐぐ……。それを言われると、ぐうの音（ね）も出ません……。
でも、私の身体が完全に人間になれないって事は、つまり……」

〈電話の相手〉

「……それはすなわち。

『アレ』を行わなくてはならないという事ね」

【とても不安で、自信がない】

で、できるんでしょうか。私……」

〈電話の相手〉

『できるんでしょうか』じゃないでしょう? やるのよ。

貴方。もともと彼女とそうなりたくて人間になつたんじゃないの?
これは逆に、勇気を出すチャンスなんじやない?」

「ううう……」

〈電話の相手〉
「……まあ『冗

電話の相手『まあ冗談はこのくらいにして』と、本来の説明を始めようとする。しかし、モニカ、またも全く聞いていない。勢いよく立ち上がる。

SE6：モニカが勢いよく立ち上がる音 【すべて流す】

「わかりました！ やります！ やってやろうじゃありませんか！」

〈電話の相手〉

「え？」

【不安のあまり、しゃべり方が変になつていて】

けけっ結果を。楽しみにしてて下さいよね！

それでは！」

SE7：『ピツ』とモニカが電話を切る音 【SE5と同じ音。すべて流す。『ピツ』と1回】

SE8：主人公がドアをノックする音【すべて流す。SE7の電話を切る音とほぼ同時で、あまり聞こえない】

SE9：主人公が部屋に入つてくる足音 【すべて流す】

〈主人公〉

「おーい」

SE10：モニカが勢いよく飛び跳ねる音 【すべて流す】

【非常に驚く。主人公がいる事に、今気づく】

ふざやつ！ いつからいたの？

ノノノノノツク位してよね！

主人公、内心『ノがずいぶん多いな』と思つてている。

〈主人公〉

「えー？ したよー？ どうしたの。何かあつた？」

【声が震える。真っ青になりながら】

そう。何かあつたの。大変なのよ。

【おずおずと】

あの……ね。突然なんだけどあなたに頼みがあるの。
あの。何も聞かずに……私と……」

主人公、明らかにモニカの様子がおかしいので『何かあつたのだろう』と察する。
とりあえずモニカの目の前まで行き、話を聞こうとする。
しかし、モニカが具体的に何を話したいのかはわからない。キヨトンと問い合わせ返す。

【S E 11】主人公がモニカに向かって歩いてくる音 【S E 9と同じ音。2回分繰り返して
流す】

（主人公）

「うん？ 『私と』？ なんでしよう？」

対するモニカ、主人公が眞面目に話を聞いてくれる雰囲気なので、かえつて申し訳なくな
つてくる。

これから自分がお願いしたい事は、あまりにもバカバカしいというか、嘘っぽいというか
『どうしてそうなった』なので、信じてもらえる気もしない。
おそらく無理だろうとわかつていながら『とりあえず自分一人で何とかしてみよう』と思
い、主人公を追い出してしまう。

「やつぱり何でもないわ！」

「あの！ 今日はもう寝るから！」

急ぎの用事でないなら明日に改めてもらえるかしら！」

（主人公）

「あ、そう？ ジャあまた明日にするね……」

「ええ！ そうしてもらえると助かるわ！
ではまた明日！ グンナイ！」

【S E 12】モニカが主人公を追い出す足音

【すべて流し、2回繰り返す。スピードをかな

り上げて、無理やり追い出している印象にする】

SE13 ∵モニカが勢い早めに自室のふすまを閉める音 【すべて流す】

主人公『頼みごとがある』と言われたと思いきや追い出され、突然の事にボカンとしている。

しかし部屋の前で呆然と立つていると、再び扉が開いて、モニカが申し訳なさそうに出てくる。

SE14 ∵モニカがふすまを『そろそろそろ……』と開ける音 【0～3秒ほどまで流す】

「ごめんね。おやすみなさい……」

SE15 ∵モニカが扉を『そろそろそろ……』と閉める音 【SE14と同じ音。そのまま続きの4～1.1秒を流す】

しばし聞。

そのまま環境音のみで、やがてフェードアウトする。

4・はじめてのキス

3から数時間後。夜二十三時ごろ。

モニカの身体、なんと人間の耳が消え、犬の耳に戻ってしまっている。モニカ、なんとか隠そそうとするが、まるで意味はなく、ただ耳をいじっているだけになっている。

SE1..部屋の環境音 【トラック1、3のSE1と同じ音。トラック終了まで「くく小さな音で流す】

「これをこうして！ どうつ！」

【ガックリして声が低くなる】

……あ、何も変わらない。さつきと同じだわこれ。

【気を取り直す】

それならこれで！ どうかしら！」

SE2..モニカがガクっと床に手をつく音 【すべて流す】

「ああーっダメ！ 狂おしい程に変化なし！

あああ……。ダメだわ。どうにもなんない。

このままじや私、どうなつちやうの……？」

モニカ、現実逃避を始める。頭から布団をかぶつて、耳を見ないようにする。するとそこに、主人公がやってくる。

SE3..モニカが布団をかぶる『ばさー！』という音 【すべて流す】

SE4..主人公がドアをノックする『コン、コン』という音【トラック3のSE8と同じ音。すべて流す。モニカが布団を上げる音とほぼ同時で、あまり聞こえない】

〈主人公〉

「モニカさん。さつきからどうしたの。

このままだとどうなつちやうの？ わたしや心配ですよ？」

モニカ、慌ててさらに布団をかぶつて、頭を隠す。

「うびやあ！」

だからー！ ノックしてって言つてるじゃないのよおー！」

〈主人公〉

「いや、 してるからね。さつきも含め、 一回ともノックしてるからね？」

【ペニックで泣きそう】

うつ……。だから何でもないつてば。お願ひだから。今は放つておいてほしいのよおー！」

〈主人公〉

「いやいや、 放つておけないよ。何か困つた事があるんでしよう？」

【主人公の優しさが嬉しい】

えつ……。

何でそんなに優しくするのよお。

そんな事言われちやつたら、私……」

〈主人公〉

「そんなの当たり前でしよう。私はモニカが大好きなんだから。
よかつたら説明してほしい。モニカに一人で抱え込んでほしくないよ。
……そういえば。人間になつてからあんまりしてなかつたよね。
抱つこさせてほしいな。おいで」

「あうう……」

モニカ、主人公に優しくされて、とても嬉しい。
抱つこされるのも久しぶりなので、すゞい勢いで飛びつく。

SE5：主人公がモニカの元に近づく足音 【トラック3のSE11と同じ音。すべて流し、

4回繰り返す】

SE6：モニカが主人公に抱きつく音 【すべて流す。少し音を小さめにする】

【どうとう泣き出す】

うわあーん！

あのね……あのね……」

モニカ、主人公に抱きしめられるとホッとして、とうとう泣き出してしまふ。

一人で何とかしようと思つたのに、もう主人公に甘えてしまう。

SE7..モニカが被つていた布団を取る『ばさー』という音 **【SE3と同じ音。すべて流す。さらに、3よりもスピードを速め、ボリュームを若干大きくする】**

あのね。言つてなかつたけどお。私の身体つ。

本当はつ。完全に人間になれた訳じやなくてえ……。

放つておくとお……」

主人公、モニカの頭部を見て驚く。

〈主人公〉

「み！ 耳が！ 人の耳が消えて犬の耳に変わつてる！」

「【泣きながら。『こ』が『こ』になる】

「こ。こんな風にい……。犬に戻つちやうのよう。今は耳つ。だけだけどお。次はしっぽが生えて。そ。その後はどうなるかわからんない……」

SE8..主人公がモニカの背中を撫でる『ぽん、ぽん』という音 **【0~3秒ほどまで流す】**

主人公、驚きのあまり絶句するが、よく考えてみれば不思議な事は今に始まつた事ではない。もうこうなつたらファンタジーにとんとん付き合おうと、腹をくくる。

〈主人公〉

「わかつた。まずは落ち着いて。それは怖かつたでしよう。おおよしよし。誰にも言えなくて、不安な思いをしたよね。でも、もう安心していいからね」

「【泣きながら】

「うんひ。うんひ。ありがとお……。怖かつた。怖かつたよう……。

【10秒ほど泣き続ける】

ぐすり。ぐすり。うわあーん……」

SE9..主人公がモニカの背中を撫でる『ぽん、ぽん』という音 **【SE8と同じ音。同様**

に0～3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「よしよし、いい子いい子。……少し落ち着いた？」

【まだ涙声】

ぐすつ。うんつ。もお大丈夫う……】

〈主人公〉

「よし。じゃあ、状況を整理しよう。

どうしたら元……っていうか、また人間になれるかだよね。

モニカ、そういう方法はあるって聞いてる？」

モニカ、主人公が優しいので嬉しい。このままもっと甘えたい。
が、主人公が非常に真剣なので、その『また人間に戻れる方法』を余計言い出しづらくな
る。

【『言い出しづらい】

う。

い。一応、あるみたい。

ある事をすると。また人間の姿に戻れる、らしいんだけど……】

〈主人公〉

「よかったです！あるんだね。安心したよ。

よし、早速それをやつてみよう。私も手伝うから。

ある事つてなあに？協力したいから、言つてゞらん？」

主人公、冷静なフリをしているが、実際はかなり不安を感じている。
たとえば『人間の生き血を飲まないとダメ』と言われたらどうしよう……。私の血液で大
丈夫かな……と思つていて。

また同時に、泣いているモニカが可愛いので、心配なのと同じくらい、ついドキドキして
しまう。

【すぐ言いづらい】

ある事、とは……】

〈主人公〉

「とは！ どんと来いファンタジー現象！」

しばし間。

【ぼそつと】
……セックス

〈主人公〉

「はい？」

しばし間。

主人公、ポカンとする。我が耳を疑っている。

【ヤケになつてゐる】

だからあ！ セックスよお！

詳しく述べよくわからんないけど人間とセックスして！
いちやいぢやしてアレコレしたら人の形を取り戻せるらしいの！
うわあーん！ こんな言葉二回も言わせないでよお！

〈主人公〉

「いや、全部で三回言つてるよ」

【ツツコミが入つて我に返る】
あ、三回言つてた？

【でもツツコミどころはそこじやない！】となる

いやそこじやないわよ！
ていうかこんなのおかしいでしょ？ 訳わからんないでしょ？
だから一人で何とかしようとしたのよ！
何ともできなかつたけど！」

〈主人公〉

「いやいや、その程度の事で助かつた。
生贊を捧げるとか言われたらどうしようかと思つたよ……。
よかつたあ……それをすれば、モニカは人間のままでいられるんだね。

本当に安心した。犬のモニカも可愛いけど……。

せっかくおしゃべりできるようになったのに、元に戻っちゃつたら淋しいもん」

「えつ……!』

【おろおろする】

あ、あなた。嫌じやないの？

私。当然だけど人間の知り合いなんて、ほぼあなたしかいないから。

私が犬に戻るのを止められたとしたら。それは……。

【恥ずかしさで『ゼンクス』と言う時に声が小さくなる】

あなたが私とセックスするしか、ないんだけど……』

〈主人公〉

「あ、四回目」

「もおおつ……!』

〈主人公〉

「嫌なわけないでしよう。私はモニカが大好きなんだから。

モニカが私を助けるために、大変な思いをして人間になつてくれたみたいに。

私もモニカにできることはなんでもしたいと思つてるよ。

……でも、もちろん。モニカが嫌なら、他の方法を探すしかないけど……』

【強く否定する】

私だつて嫌な訳ないわ！

あなたが大好きで、あなたの力になりたくて人間になつたんだもの。

こんなところで終わりたくない……。

でも、そんなに簡単に決めちやつていいの？

あなたの気持ちはどうなるの？

他に好きな人がいたりしないの？」

〈主人公〉

「いないいない。

この通り、仕事に忙殺される割には特に豊かでもない。

むしろ常にカツカツという、実に淋しい一人暮らし生活を送つてているよ。

ていうか勢いで言うと私はモニカが大好きだよ。

前から大好きだったけど、助けに来てくれた日からもっと好きになつちやつたみたい。

犬のままであるうと、人に変身しようと、私はあなたのためなら何でもできます。
だから大丈夫。安心して」

【身体の問題を完全に忘れる程嬉しい】
えつ・じやあ私達、ずっと両想いだったの……？「

〈主人公〉

「そうだよ。ていうかモニカ、人間になつた姿が正直とつても私の好きなタイプで……。
こんな可愛い子と一緒に暮らせて、すごく幸せだなつて思つてたといいますか……」

「そうだったの？」

【感激して】

嬉しい……！ 私も！

【ずっと伝えたい事だったので、嬉しくて早口になる】

死にそうになつてた私をあなたが拾つてくれた日から、ずっとあなたが大好きよ。

【少し間を空けて。勇気を出して切り出す】

あのね。前に、あなたを助けられればそれで十分なんて言つたのは嘘。

本当は人間になつて、あなたと恋人同士になりたかったの……」

〈主人公〉

「そうだつたんだ……。すごく嬉しい。

じやあ、今から私達、恋人同士だね！

安心して、モニカ。あなたの困り事は、これで全部解決するよ。
怖かつたよね……よし、よし」

SE10..主人公がモニカの頭を撫でる音【すべて流す】

【安堵して、鼻をすする】
ぐすり。

えへ……。良かつたあ。じやあ最初から、何も心配する事なんてなかつたのね。

【切り替えが早い】

じや、じやあ！ 両想いに、なれた。事だし。

【実はとても興味があつた】

キ。キスとか、しちやう……♪」

〈主人公〉

「……うん！ しよう……！」

【アワアワする】

どうすればいい？ 私初めてなのだけど！」

〈主人公〉

「……目を閉じるだけでいいよ。 私からする……」

「あ。 目を閉じるだけでいいの？ わかつたわ！」

【おつかなびっくり】

「うう」

しばし間。 主人公の唇が寄せられ、主人公とモニカ、キスをする。

【軽く触れるだけのキスをする】

ちゅっ。

あ……。

【緊張で、少し間があく】

し、した？ 今キス、しちやつたの？」

〈主人公〉

「……うん。 どうだつた……？」

【嬉しくて声が震える】

あ、あなのね。

【緊張で、少し間があく】

すゞく嬉しい……。

キスつて、こんな感じなのね。

【嬉しさをかみしめている】

何だか、胸のあたりが、ふわふわっ、して……。
この辺を。ぐるぐる駆け回りたい気分だわ。

【またキスされる】

んつ
んつ
♥

【30秒ほどキスする。だんだん深いキスになつていく】

ちゅつ。ん……ふつ……あ……♥ んうつ……ちゅつ♥ ん、ん、あつ。ちゅつ♥ んん
うつ……♥

【呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……。

【感激している】

すゞい……キスって、すゞいのね……

〈主人公〉

「ね。すゞいね……」

【大興奮している】

うん！ すゞい…… こんなにドキドキしたの、初めてだわ！」

〈主人公〉

「モニカは可愛いね。そんなに喜んでもらえるなんて私も嬉しい……」

【恥ずかしいが伝えたい】

だ、だつて……！

【言つてゐるうちに、どんどん嬉しくなつていく】

あなた知らないの？ あなたつて最高なのよ！ 優しいし、いつも助けてくれるし。すゞ
くいい匂いだし！ たくさん可愛いって言つてくれるし！
人がいっぱいいるところでだつて。あなただけ輝いて見える位よ！
そんなあなたとキスできるなんて！ すゞい！ すゞい事なのよ！」

〈主人公〉

「そんな事言つてくれるの、きっとモニカくらいだよ」

【驚く。モニカとしては意外でならない】

そうなの？ でも、その方が都合がいいわ！
だって、あなたがこんなに素敵なのを、私しか知らないなら……。
私があなたの事、いっぱい独占できるつて事よね！

【少し間があく。ドキドキ切り出す】

……ねえ。もう一回、キスしたい……。

【20秒ほどキスする。今度は最初から濃厚なキス】

ちゅ♥ んんうつ……ん……ふつ……ちゅつ♥ あ。んつ♥ ちゅつ。んうつ……ちゅつ。
ん、んつ……ちゅつ♥ 「

SE11：主人公がモニカをベッドに押し倒す『ぱさ』という音【すべて流す】

【押し倒されて驚く】

あ……♥

私達、本当に。しちやうのね。

【本当は『何だか怖い。不安かも』と言いたいが、主人公に悪いので言えない】
嬉しいけど。何だか……】

主人公、モニカが緊張しているので、モニカの髪を撫でる。

S E 1 2 ..主人公がモニカの髪を撫でる音 】 0 ~ 4秒ほど流す】

【撫でられて少し驚く】

あ……

〈主人公〉

「モニカの髪の毛はさらさらで綺麗だね。つやつや光ってる」

【撫でられてホッとする】

ふふ。

【嬉しくてテンションが上がる】

あ……髪の毛?

本当? この髪、好き? フフフ。やつたあ。】

あのね。私も人間になれるなら、こんな女の子になりたいってずっと想像してたの。
だってあなた。前テレビを見て。

こういう黒髪の、小柄な感じの女の子を可愛いって言つてたがら」

〈主人公〉

「ああ……。言われてみればそんなことがあった気も……」

【むすつとして】

私それが、すごく悔しかった……!

だってあなたの事、この世で一番大好きなのはこの私なのに!

あなたは他の女の子にうつつを抜かしてたんだもの!

思わず『キーッ!』ってなったのよ。

だからね。その日から毎日考えていた。

いつか絶対あなたがびっくりするような素敵な人間の女の子になつて。

あなたをメロメロにさせてやるんだって……。
ねえ、どうかしら。

私、ちゃんと可愛い女の子になれてる……？」

〈主人公〉

「なれてるよ。モニカ、すぐ可愛い……」

「嬉しい！」

【軽く重ねるだけだが、大きな音のするキス】
ん……ちゅっ♥

【3回、重ねるだけの軽いキスをする】

ちゅっ。ちゅっ。ちゅっ♥

【興奮してくる。10秒ほどかけて、ゆっくり呼吸を整える】
はあ……はあ……はあ……。

あの……い。いよいよ、これから、しちゃう訳だけど。

私これから、どうしたらいい？

【不安だが、とても興奮している】

セックスって。具体的に何をしたらいいの……？

私全くわかつてないって事はないんだけど。きちんと理解はできないの……。

あなたはわかる？

〈主人公〉

「わかるといえばわかる……」

【若干ホツとして】

本当？ じゃあ、あなたに任せる。

【主人公を完全に信頼しきつている】

あなたにお願いすれば。絶対大丈夫だもの。えへへ。やっぱりあなたってすばいいのね。あなたの大になれて幸せだわ」

ここで一度環境音がフェードアウトし、次のトラックに移る。

5・ドキドキ初えつち

トラック4のそのまま続。

SE1..部屋の環境音 **【**トラック1～4のSE1と同じ。トラック終了まで、ごく小さな音で流す**】**

〈主人公〉

「じゃあ。ふ、服を脱いで、裸になるよ。手伝うから……」

【緊張してくる】

「うんっ。わかった。ぬ、脱ぐわ。
あ……脱がせてくれるの？」

〈主人公〉

「うん。万歳してくれるかな」

【ホツとする】

「う？ 万歳するの？」

SE2..主人公がモニカの服を脱がせる音 **【**0～8秒ほどまで流して止め、セリフ

【恥ずかしいが、とても嬉しい。内心ニヤニヤしてしまう】
えへ……身体、見せるのは。は、恥ずかしいけど。何だか嬉しいかも。
私達これから裸になって。キスしたり、さわりっこしたり、するのよね。
すごく特別な関係になれた感じがする……。ふふふ！

【しかしここで、自分だけ服を脱いでるのが恥ずかしくなつてくる】
あ。でもやっぱり恥ずかしいわ！」

SE3..モニカが主人公の服をひっぱる音 **【**0～3秒ほどまで流して止め、セリフ

「あなたも早く脱いでよう！」

【ピン！ とひらめく】

「そうだ！ 私が脱がせてあげる」

SE4..モニカが主人公の服を脱がせる音 **【**すべて流す

【すべて流す】

モニカ、主人公の服を脱がせようとするが、なかなかうまくいかない。

【うまくできなくて不安になる】
あれ？ この服どうなつてるの？」

〈主人公〉
「こうかな……」

【少し安心する】
あ。なるほど

SE5..モニカが主人公の服を脱がせる音【0~8秒ほどまで流して止め、セリフ】

「やつた！ できたわ！」

主人公とモニカ、揃つて下着姿になる。

【満足げに】

ふふ。これで。私もあなたも。だいたい裸ね！

【キスされる】

ん……ちゅっ♥

えへ。何だか幸せ

SE6..モニカが主人公に抱きつく音【すべて流す。音は元の音よりもかなり小さめにする】

【ふふ。気持ちいい♥】

【うつとりため息をつく】

……はあ。直接肌をぴったりくつつけると、こんなにあつたかいのね。

【うつとりしていい】

あのね。私ね。あなたのおっぱい大好きなの！

柔らかくてもちもちで。

昔から抱っこされてると、すく安心したのよ。ふふ！

前はせいぜい身体をくつつける位しかできなかつたけど。人の手になつたら、こうやつて包んで触れるのね。

ねえ。触つてもいい……？」

〈主人公〉
「えっ！」

【ちょっと得意げに】

私知ってるのよ！ 胸。触つたら気持ちよくなるのよね？」

〈主人公〉

「う、うん。いいけど……。もう。モニカはえっちだなあ……」

「うふふ。じやあ下着、とつちやうわね」

SE7

..モニカが主人公のブラジャーのホックを外す『ぶち』という音
トハ元の音よりもやや小さめにする】

モニカ、主人公の下着を脱がすなり、胸を夢中で触り始める。

主人公、こうなる事は予想していなかつた。

てつくり自分が攻める側だとばかり思つていたので、驚くとともに、恥ずかしくなる。

【主人公の胸に触つて、うつとりしている】
はあ……ふわふわ♥

【興奮してくる】

すごい。直接触るとこんなに柔らかいのね。

あの。これから。もうと触つちやうけど。痛かつたら言つてね？

【ゆつくり目に。興奮して】

ああ……ふについてつかんだら、こんなに形変わつて……す「い……。

手に吸い付く、みたい……！

【主人公の乳首が勃起してきたのに気づく】

わ。真ん中のここも、何だか起き上がりつてきて。硬くなつたわ……。

【まづい事をしたのかと不安になる】

大丈夫？ 触つて平氣？」

〈主人公〉

「……いいよ……。こうなるのは、気持ちいいって事だから……」

【うまくできているとわかつて、ホツとする】

あ。本当?

気持ちいいの……? ジヤア、もつとしてあげるわ♥

【おつかなびっくり、乳首を触り始める】

「う? 硬くなつたこ?、くにくにつて転がしてあげたら、気持ちいいの?
こうかしら。ふふ……気持ちいい?」

【主人公が感じているらしい事を理解する】

あ。びくつでした♥

あのね! ちよつとわかつてきたわ。

【嬉しくなる】

気持ちいいの?

【恥ずかしそうにドキドキしながら】

もつと気持ちよくなつてくれて、いいのよ。

【少し言い出しづらい。少し間が空く】

あのね。急にセックスしてほしいなんてお願ひして。あなたはいって言つてくれたけど。
本当は、迷惑かけてるんじやないかって不安だつたの。

でもあなたが喜んでくれてるなら。安心だわ……♥

【もつと嬉しくなる】

あのね! 私いくらでもしてあげる。あなたの気持ちいい事、全部教えて!

【返答を待つより先に、乳首をなめる事を思いつく】

あ! そうだ。なめてもいい? この硬くなつた、おっぱいの先!

【主人公の乳首を口に含む】

ん……ちゅぱ?。

【20秒ほどかけて、主人公の左乳首を吸う。小さめの音で、夢中で吸う】

くちゅるり……ちゅぱ?♥ ちゅう、ちゅう、くちゅう?♥ れうれう……ちゅるり♥

【口から離す】

ふはい。

【とても嬉しい。意味はよくわかつていなが『感じている』という言葉を使ってみたくなる】

うふ。感じちやつた?

あ! 片側だけじや不公平よね。だつてこつちも硬くなつてるもの♥
こつちも……。はむい。

【20秒ほどかけて、主人公の右乳首を吸う。先ほどよりも少し音が大きくなる】

れろ……ちゅつ♥ ちゅぱ?、ちゅぱ?。ちゅぱ?♥ くちゅう……ちゅるり。れろ……

くちゅつ♥

【口から離す】

うふー！

【主人公が気持ち良さそこので嬉しい】

あなた顔。赤くなつてる。気持ちよかつたのね？
ねえ！ どうしたらもつと気持ちよくなるかしら？
教えて？」

モニカ、どうやらうまくできているらしいのが嬉しく、自信が湧いてくる。
主人公をそつと押し倒して覆いかぶさる。

対する主人公、とても恥ずかしい。すっかりおとなしくなつてしまふ。

SE8..モニカが主人公を押し倒す音 【0~1秒目の、1回目の『シユル、ドサ』のみ流す】

〈主人公〉

「ううう……あう……」

【完全に善意だが、まるで煽つてゐるよう聞こえる】

恥ずかしがらなくていいのよ。

【嬉しくてキヤツキヤしている】

言わないなら♥ 私が自由に色々しちやうわよ！

【胸全体をなめる】

れろり……♥

おっぱい、舌を押し付けるだけでこんなにむにゅつて形変わつちやう。すげー……。
そうだ。

【お腹をなめる】

じゅるり……♥ ハハ」とかも気持ちいい？

【主人公の反応がいまいちなので】

あ。そうでもないのかしら。
じやあこつち？」

SE9..モニカが主人公の腕を真上にあげ『ポン』とおろす音 【0~1秒目の、1回目の『ポン』のみ流す】

モニカ、主人公の脇の下をなめる。

【脇の下をなめる】

ぺろい。んんむい……」

〈主人公〉
「ああっ…………！」

【嬉しい】

あ！ 正解かしら。じゃあもつとしてあげる！

【20秒ほどかけて、主人公の左脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
じゅるつ……ぺろつ ♥ れろれろ……ちゅるつ ♥ ちゅるる……ちゅつ ♥ ちゅつ、くちゅつ。れろつ。じゅるる……♥

【口を離す。嬉しい】

あなた、脇のところがとつても弱いのね。覚えたわ！

あ ♥ もちろんわかってるわよ。片側だけじゃだめよね！

【20秒ほどかけて、主人公の右脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
れろろ……じゅるつ …… ♥ ぺろつ。ぺろつ。ぺろつ。ちゅるつ ♥ ちゅるる……ちゅつ。

じゅるる……♥」

〈主人公〉

「もう……モニカあ……くすぐったいよう……。気持ちいいけど恥ずかしい……」

「フフフ当然よ。気持ちよくなる事してるんだもの！」

〈主人公〉

「もう……モニカばっかりずるい……。

私もモニカに触りたい……。おっぱい触らせてよ……」

「……へ？ 私のおっぱいも触りたいの？」

【どうしてそうなるのか、よくわからない】

私のおっぱい触ると、あなた気持ちいいの？」

【『触るより、触られた方が気持ちいいのでは？』と思いつつ従う】

いいわよ？ ジヤあこれ。

【『ホツク』であつてているのか自信がない】

ホツク？ 外してくれる……？

難しくて。自分じやなかなかうまくできないの……」

SE10：主人公がモニカのブラジャーのホックを外す音 【すべて流す。音は元の音よりも小さめにする】

【びくつとする】

……あ！

ひ、人に外してもらうと、すぐ『わ！』ってなるのね。
何か急にすうすうして、は、恥ずかしい』

〈主人公〉

「私もさつきおんなじ」と、されたんだけどお……？」

「そ。れは、そただけどっ」

〈主人公〉

「だから私もしてあげる。後ろから抱っこして触っていい？

お膝の上、おいで」

SE11：主人公がモニカを抱き上げて、膝の上に乗せる音 【0～4秒ほどまで流してセリフ】

【これから何が起きるのかよくわかつていなない】
え？ 後ろ向きでお膝に乗るの？ こう？

【キスされる。さつきよりだいぶ慣れている】
ん♥ ちゅっ。

ふふ、好き。だーいすき♥

【もう一度キスする】

ちゅっ♥

【後ろから胸を触られる】

あつ……♥

【びくびくと感じてしまう】

ああつ……♥ あ、ん♥ ひやあつ……♥

【快感にわけもわからず、戸惑っている】

ねえ？ 何かこれ？♥ 変じやない……？ あつ♥ 何でそんなつ♥ 触り方つ。ひや
つ♥ するのぉ……？

〈主人公〉

「モニカだって、さつき触ったでしょう？ お返しだよ……」

「私も触った、けどおつ。何か恥ずかしいっ♥

こ♥ こんなんじやつ。あ♥ あつ♥ なかつたわよおつ♥

【耳にふーっと息を吹きかけられる】

あ!

あつ♥ やだ耳つ♥ いじんないでえつ。

あつ、やあつ。そんなんすん、しないで……くすぐつたあい♥「

〈主人公〉

「モニカ可愛い……。私も大好き。モニカともっと色々したい。
ていうか、可愛すぎて、やばい……」

【気持ち良すぎて、わけがわからなくなつてている】

へつ♥ 何がやばいのよお。やばいのはこつちだつてばあつ。

【でもこれは言わねば!】と思つている】

あつでも私も大好き!「

モニカ、くすぐつたくて恥ずかしいが、主人公がいっぱい好きと言つて、可愛がつてくれるので嬉しい。

不安な気持ちはすでに失せて、主人公とじやれ合えるのが嬉しくなつてくる。

【耳にいたずらされながら、乳首をいじられてびくつとする】

ふえつ。ひやつ♥ やめてえ♥ そこ引っ張つちややあなたの♥ あ♥
好き……。

【20秒ほどキスする。あまり激しくなく、甘つたるい雰囲気で。何度もキスしたり唇を離したりを繰り返した後、強く舌を吸われる】

ん♥ ちゅつ♥ あんつ……ちゅつ♥ んんう♥ ちゅ、ちゅ、ちゅつ♥ ああん……!
ちゅるつ。くちゅつ、ちゅつ♥「

〈主人公〉

「モニカ……もう我慢できないかも……こつちも触つていい?」

SE12：主人公がモニカの股間に、下着越しに触れ、撫でる音【0～3秒ほどまで流す。
音は元の音よりも小さめにする】

ここで主人公の手が、モニカの股間に伸びる。

モニカにとつては予想外の事で、非常にびっくりする。

【混乱する。どうしてそうなるのかわからない】

「へ？ 何で？ そこおしゃべるでしょお？ いいの……？」

【とても信じられない】

「え？ ここ触ると気持ちよくなるの……？」

【主人公の事が心配になる】

「そうなの？ でもあなた、やじやないの？」

〈主人公〉

「全然嫌じやない。ていうか、すぐ触りたい……。でも……」

「わ、わかった。あなたが、いいなら……。私。

【少し間を空けて。勇気を出して言う】

触つて、ほしい……。

【恥ずかしいが、打ち明ける】

あ、のね。さっきからずっと。この。お股のところが熱くて。

何だかもぞもぞするの……。

だから、あなたの言う通り。触つてもらいたら気持ちいいんだもうってわかる……。
だから。あなたさえよかつたら。

【泣きそうになりながらお願いする】

※特に聞いていい側をドキンとさせる感じでお願いします。

して？」

〈主人公〉

「……わかった。じゃあ、ゆっくり、触るね？」

【すじ】ぐドキドキしている】

うん？」

SE13：主人公がモニカの下着に手を入れ、股間に直接触れる音【SE12と同じ音。

5～8秒ほどまでを流し、SE14に移る】

SE14：主人公がモニカの股間を愛撫する水音【0～3秒ほどまで流してセリフ。その後335まで元の音よりもかなり小さめに、繰り返し流す。セリフが音声のメインで、このSEは『かすかだが、確実に鳴つてるとわかる程度』でOK】

【手が伸びてきて、ドキドキする】

あつ……♥

【直接触れられて驚く】

ひや？

【感じてしまう】

んつ。あ。あつ……♥

【ゆっくり呼吸して快感を耐えようとする】

うんつ……はあ……はあ。あ♥ 平氣つ。

【感じてしまう】

でもつ。ああつ……♥ 何か、熱くてえ。ふにやふにやするうつ「SEここで止める。

〈主人公〉

「モニカ。すっごく可愛いよ。それから……モニカの……。すっごく濡れてる……」

※ここから次の「※」マークで達してしまっまで、非常に甘い声になる

【甘えた声で】

ふえ？ 濡れ？ やだあ。何か恥ずかしい……。でも何か……』

SE15

..主人公がモニカの股間を愛撫する水音【378まで繰り返し流し、セリフの内容によって適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

「あ♥ ひあつ♥

【キスする】

ん。ちゅ♥

【唇を離す】

ああつ……何これえ♥ 本当にすっごく気持ちいいつ♥

あ♥ 大丈夫つ。このまま。触つて……？

すっごく、あ♥ 気持ちいいからつ。もつと触つてつ？ べりべりつてして？

強くして大丈夫つ♥

※ここから少しボリュームを上げる

【夢中で腰を動かして、特に気持ちいいところに主人公の指が当たるように押し付けてい

る】

はあ……ああ♥ あ、そこつ。好きつ♥

【夢中で腰を動かして】

あ、あ、あつ♥
すゞい、すゞいよう。ねつ。もつとさすつて? ニー。気持ちいいのぉ……♥
あーつ……♥

【何とか会話したいので、呼吸を整えようとする】

はあ、はあ、はあ……。

※ここから少しスピードを上げる

【甘つたるぐ】

ねえ、こんなにすゞいの? セツクスつてこんなに気持ちいいの?

ふあつ♥ あつ♥

※ここからさらにも少しスピードとボリュームを上げる

好きつ。好きつ。大好きつ。

ああつ♥ きもちい、きもちいつ♥ 気持ちいいよお。

あ、あ、あ♥ もつとして? 大丈夫だからつ。あ♥ 大好き♥

【20秒ほど喘ぐ。さつきよりも声が高くなり、いくのに近づく】

あーつ♥ あ、あ、あ♥ きもちい、きもちいいつ。

【ここで達する】

あああう……♥

※ここでSEを止める。『急に止まつた』という印象がないように、フェードアウトさせる

【10秒ほどかけて、呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……。

【少し間を置いて。呆然としている】

何これえ……? 私、どうなつちやつたの……?』

SE16：主人公がモニカの背中を撫でる音【トラック3のSE8などと同じ音。0～1

秒ほどまでの1回分の『ぽん、ぽん』のみ流す】

〈主人公〉

「はあ、はあ……。よし、よし。モニカ、大丈夫?」

【すゞく甘えた声で】

うん……大丈夫つ。訳わかんなくつ、なつちやつてた、だけえ……。
【10秒ほどかけて、呼吸を整える。さつきよりも落ち着いている】
はあ……はあ……はあ……。

【すゞく甘えた声で】

でも、気持ちよかつたあ。セツクスつてこんなにすゞいの? ねえ。こんなにしてて、人
間つて大丈夫なの?』

主人公、そう言わると恥ずかしくなつてくる。

モニカとこうなつてしまつて、自分は大丈夫かといふと、大丈夫ではない気がしてくる。

〈主人公〉

「大丈夫じやないかも……」

主人公、正直なところモニカともつとセックスしたい。が、そこで重大な事に気づく。

〈主人公〉

「あ。モニカ！ 耳！」

「へ？」

〈主人公〉

「耳！ 治つてる！」

【すっかり忘れていた】

あ。何か音の聞こえ方違うなつて思つたら……。

【今一つ信じられないでの、鏡を見て確認しようとする】
か、鏡頂戴？】

〈主人公〉

「はいどうぞ」

SE17..主人公がモニカに鏡を渡す音【2~3秒ほどの『スー、チャ』のみ流す】
SE18..モニカが驚きのあまり飛び跳ねる音【トラック4のSE11と同じ音。元の音

より若干ボリューム小さめに、すべて流す】

「すごい！ 耳。完全に元通りになつてる！」

【主人公の頬に軽くキスする】

ちゅ！

やつぱりあなたにお任せして正解だったわ！

【恥ずかしい】

セ、セックスも。話にはすぐ痛いって聞いてたのに、全然そんな事なかつたし」

〈主人公〉

「セックストで言ったのも、これでもう何回目かわからなくなってきたね」

【恥ずかしい】

もお。茶化さないで！

【不安になる】

あつでも、どうしましよう。こんなのはいいの……覚え、ちやつたら。私。これからどんないやらしい子になっちゃうかも……」

〈主人公〉

「いいよ？ 私も気持ちよかつたし……。私で良ければ……好きなだけいやらしい子になつてくれても、大丈夫」

【すごく嬉しい】

いいの……？

【安心する】

じやあ、よかつた！

【軽くキスする】

ちゅつ♥

しばらく環境音のみを流し、フェードアウトする。

6・人間になつたら、したいこと

4から十数分後。

主人公とモニカ、二人でベッドに入つていて。

すでに着替えて、寝る準備は万端。

そこでモニカ、ドキドキと話を切り出す。

SE1..部屋の環境音 【トラック1～5のSE1と同じ。トラック終了まで、「く小さな音で流す】

SE2..モニカがベッドの中で「そぞろ動く音 【すべて流す】

「ねえ。あなたつて、生まれてからの最初の記憶つてわかる？」

〈主人公〉

「覚えてる覚えてる。

児童会館？の肋木（ろくぼく）に登つて遊んでたら、うつかり落下して。頭を打つたつて記憶だよ」

【予想外にハードなのでギョツツとする】

え？ それはいきなり大変な記憶ね。

【気を取り直す】

※ここから次の「※」マークまで、真面目な口調で。

あのね。私の最初の記憶は、あなたが。

今にも死にそうになつている私を、病院に連れて行つてくれる思い出よ。

あの時私、実はもうだめなんじやないかと思つてたの。

寒くて、苦しくて……。

あなたが頑張つてくれてるのに『もう何をしても無駄よ。私はこのまま死んじやうの』つて、自分を諦めそうになつていたの。

でも、あなたは手を尽くしてくれた。

何のゆかりもない捨て犬の私を拾つて、また元気に暮らせるようにしてくれた。

きつと、すごくお金もかかつたでしょに……。

『これから一緒に住もうね』って言つてくれた。

だから私。

あなたつてお金持ちで、すごく余裕のある人なんだろうつて、最初の頃は思い込んでいたの。

でも、すぐに違うつてわかつたわ。

【泣きそうになる。毎日倒れるほど真面目に働いている主人公を想うと涙が出てくる】

あなたは毎日お仕事大変で、夜遅くまでフラフラになつて。崖っぷちのところで頑張つてるので。本当に、誰かを助ける余裕なんてなかつたのに……。

それでも私を拾つてくれたんだって。※

あのね。だから。今度は私があなたに色々させてほしいの！

これからいっぱい勉強するし。

アルバイトもして家計も助けちゃうんだから！

【少し間を空けてから】

……大好き。

【真剣に。これを一番伝えたかった】

あの時私を諦めないでいてくれて、ありがとう……」

SE3:『ほん、ほん』と主人公がモニカの頭を撫でる音 【トラック4のSE8と同じ音。0～4秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「それは頼もしい！ ありがとう。でも。無理しないでね。私はモニカが一緒にいてくれるだけで幸せなんだから」

「ダメよ！ 私。断固恩は返す主義なの。

……あ。そういうえば、さつきの用事つて何だつたの？

【申し訳なくてしゅんとする】

私、話も聞かずに追い出してしまつたわ」

〈主人公〉

「そうそう。今度近所の神社でお祭りがあるから、一緒に行こうよつて誘おうと思つてたの。花火大会もあるんだよ。どうでしよう？」

SE4:モニカがベッドの中で大きく動く音 【0～2秒ほどまで流す】

【大きくテンションが上がる】

ええ 夏祭り？

行く！ 行くわ！ ゼひ連れて行つて頂戴！

【ハツと気づく】

そつか……私。これからはあなたとどこへでも行けるのね。

もう、一人でお留守番しなくていいのね！

【さらにテンションが上がる】

あのね！ だつたら私！ あなたと行ってみたい場所がたくさんあるの！
まずはね、遊園地でしよう。それから、海でしよう？
それから……それから……。

【眠くなつてくる】

んー……

SE5.. モニカがベッドの中で眠そうにもそもそも動く音 【0~3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「大丈夫？ モニカ。 そろそろ眠いんじゃない？」

【とても眠い】
んにや……まだまだいけるわよ。 最近の犬は夜更かしなのよ。

【眠い。話し方が非常にゆっくりになる】
だからね……それから……。 それから……。

【眠つてしまふ】

ぐう……むにや……

主人公、眠つてしまつたモニカを見て、思わず笑つてしまふ。
モニカの頭を撫で、自分も寝る事にする。

SE6.. 主人公がモニカの頭を撫でる音 【0~3秒ほどまで流す】

SE7.. 主人公が部屋の明かりを消す音 【0~2秒ほどまでの、1回目の『ボ、コン』を
流す】

SE8.. 主人公がモニカに布団をかけ直す音 【0~7秒ほどまで流す】

しばらく環境音のみで、そのままフェードアウトする。

7・夏祭り花火デート

夏祭り当日。夕方。

主人公とモニカが出かける約束の時間までは、あと一時間ほどある。モニカ、本当は浴衣が着たかったが、アルバイトの初給料日には間に合わなかつた。なので、せめて精いっぱいおしゃれがしたいが、着る服が決まらない。うーんうーんと考えていると、主人公がやつてくる。

SE1：部屋の環境音 **【**トラック1～6のSE1と同じ音。場面転換する80まで、**】**小さな音で流れ続ける

SE2：主人公がモニカの部屋の扉をノックする音 **【**トラック4のSE4と同じ音。すべて流す。初めてきちんと聞こえる

「はーい？」

※声が少し遠い

SE3：モニカが扉へ近づく足音 **【**だんだん近づく **【**トラック3のSE1～2と同じ音。すべて流し、3回繰り返す。今度は本来のスピードで流す

SE4：モニカがふすまを開ける音 **【**すべて流す

「どうしたの？」

「まだお祭りの時間まで余裕あるわよね？」

主人公、何やら大きな包みを持っている。

〈主人公〉

「実はね、私からモニカさんにプレゼントがあるんですよ」

SE5：主人公が紙袋からプレゼントを差し出す音 **【**0～5秒ほどまで流す

「え？」

〈主人公〉

「遅くなっちゃったけど、助けてくれたお礼。プレゼントだよ」

【飛び上がるほど嬉しい
くれるの』 な、何かしらー。

開けてもいい?」

〈主人公〉

「もちろん! 良かつたら、今日ぜひ着てほしい」

「着るものなの?」

【SE6】モニカが包みを開ける音 【SE5と同じ音。20~25秒ほどまでを流す】

モニカ、中身が浴衣だと気づく。

「浴衣……!?

すごい! 私、浴衣を着られるなら、こんなのが良いって思ってたの!
こんな可愛い服が着られるなんて……。

【嬉しくて泣きそう】

に、人間になれてよかったです。

ありがとうございます! すっごく嬉しいわ。

今日は早速これを着て出かけるわ!

【ここ】で、着方がわからない事に気づく

あつ。

あなた、着付けてできる?

私、初めてだから。ちゃんと着られるか自信がないのだけれど……

〈主人公〉

「もちろん全くできない!」

これからインターネットを見ながら、頑張って着付けよう!

時間はギリギリになっちゃいそうだね!」

【呆れではいるが嬉しい】

もう! そんな事だらうと思つたわ!

でも大丈夫よ。時間までにバツチリ着こなしてみせるわ。

えへへ……浴衣デートね!」

【SE7】モニカがポケットからスマホを出す音 【トラック1のSE7と同じ音。0~2秒ほどまでを流す】

【SE8】モニカがスマホを操作する『ピ』という音 【トラック3のSE5と同じ音。すべ

て流す】

【真面目に。スマホを取り出す】
では早速……着方を調べましょーか……】

ここで一度フェードアウトする。

約一時間後。

主人公とモニカ、お祭り会場に到着し、早速食べ歩いている。

SE9：お祭りの環境音 【小さめに、場面転換するまで繰り返し流す】
SE10：モニカの足音 【0～4秒ほどまで流して止め、セリフ。124で再開する】

【非常にはしゃいでいる】

ねえ！ 次はあっちに行つてみたいわ！ あと林檎飴。買つて！

〈主人公〉

「えつ、モニカさん、まだ食べるの？」

「食べるの！ だって、とってもおいしそうで。気になるんだもの！」

〈主人公〉

「割と食べすぎでは？」

主人公、そろはいいつもモニカに甘い。さつそく林檎飴を買って、モニカに渡す。

「いいの！ 明日からダイエットするから！

【林檎飴を受け取つて】

あ♥ ありがとう♥】

〈主人公〉

「どういたしまして。まあ。ぽつちやりさんになつたモニカもそれはそれで……」

「あつでもダメよ！ 太つてもいいなんて甘やかさないで！

体型は断固、維持するわ。
でも今はたべやん食べるの。むぐむぐ……」

〈主人公〉

「でも林檎飴が最後だよ！」

そろそろ花火が始まるから。席！ 取りに行こう」

【すっかり忘れていた】

あ！ そうだつたわ。私、花火を見に来ただつた」

〈主人公〉

「花火を見るのに、すゞぐいといふを知ってるんですよ。そ、」へ行つて見よう？」

「いい場所を知つてゐの？ 楽しみだわ……！」

SE11：モニカの足音【SE10と同じ音。131まじ、環境音に馴染む程度の音量で流し続ける】

「あっち？ わかったわ！ 行きましょ！」

確かにあの辺だけ人が少ないかも！」

モニカ、場所を聞くなり、猛ダッシュで駆けていく。

SE12：モニカが駆けていく足音【0～6秒ほどまで流して止め、セリフ。139のセリフで一度立ち止まり、その後再び歩き出す前に花火大会が始まるイメージ】

〈主人公〉

「はやい！」

【非常にはしゃいでいる】※声がやや遠い

ほら！ あなたもはーやーーー！ 始まつちやうー！」

しかし、場所につく直前で、花火大会が始まる。大きな音に、モニカは驚く。

SE13：花火大会の開始を告げる音

「始まった！」

【SE13】：一際大きな花火の音 【SE13を144からそのまま流し、13秒目の大きな花火の音が、このタイミングに合うようにする】

【非常にびっくりしている】

わ、わ、わ。すごい……。花火の音ってこんなに大きいの？」

そこに、主人公が追い付いて、モニカの手を握る。

〈主人公〉

「怖い？ 大丈夫？」

【主人公を心配させたくない】

あ！ 大丈夫よ！ ちょっとびっくりしただけ！

あなたがいるんですけど。何も怖い事なんてないわ！」

モニカ、花火におびえているのかと思いきや、あつという間に魅了される。

結局二人『いい場所』ではなく、そこへ向かう途中の道で、立つたまま花火を見る形になる。

【感激している】

わああ……。
すごい……。

花火つて……花火つて……すごいのね！」

〈主人公〉

「ふふふ。それはよかったです。綺麗でしょう」

【ゆっくり、感動をかみしめる】

「うんっ！ とても。とても綺麗……」

二人、並んで花火を見る。

しばらく沈黙。

花火の音だけが続く。

【真剣に】

ねえ。連れてきてくれてありがとう。

【感動のあまり、泣きそう】

私今日の事。ずっと忘れないわ……』

二人、何だかロマンチックな雰囲気。

しかしそこでモニカ、何かを思い出したようにピヨンとはねる。

【ハツ！ と思い出す】

あ！ そうだ！ あのね。私知ってるわ！

花火を見たら。大きな声で叫ぶのがルールなんでしょう？』

主人公『そんなルールあつたっけ？』と思いつつモニカを見守る。主人公、おそらく『たまや』『かぎや』の事だらうと考える。

【SE14

‥モニカが駆けていく足音 SE10、11と同じ音。10、11よりもかなり

速度を上げて、すべて流す】

【幸せそうに花火に向かって思いつきり叫ぶ】

※本当に大きな声で叫ぶのではなく『叫び風の演技』でOKです。

あのねー！ 大好きー！

【主人公の方を振り向いて言う】

これからずーっと！ ザーっと一緒に！

主人公、ちょっと恥ずかしいが嬉しい。

モニカの愛情表現はストレートなので、ドキドキしてしまう。

【嬉しくてキヤツキヤしている】

ねえ！ あなたは？ あなたは？

【少し間を空けて。返答の代わりに主人公の顔が近づく】

あ……。

【キスする】

ちゅう。

【少し間を空けて】

わ……。

は。花火を見ながらキスするなんて。何だかドラマチックね……♥
【さつきまではしゃいでいたが、急にドキドキして恥ずかしくなる】

夢、みたい……。

【とてもドキドキしている】

あの。もう一回……』

しばし沈黙。

主人公、キスしようとして、大変な事に気づく。
一方モニカ、せつかくいい雰囲気なのに、主人公がなかなかキスしてくれないので『おか
しいな』と思い始める。

〈主人公〉

「あ！」

「『あれ？ 何でキスしてくれないの？』と思つている
ん？」

〈主人公〉

「モニカさん……！ 耳が……！」

「『せつかくロマンチックな雰囲気だったのに！』と思つている

『あ？ 何よ。耳がどうしたの？』

【気づいて非常に驚く】

うわあー！ 耳がー！

〈主人公〉

「まづい！ しつぽは？」

「しつぽは。まだ大丈夫だけど。多分時間の問題。
あわわわどうしましよう。まさかこんな場所で戻っちゃうなんて……」

主人公、慌てつても、ひとまずモニカを落ち着かせようとする。
主人公、できるだけゆっくりと話す。

〈主人公〉

「大丈夫。場所が場所だから。

犬の耳が生えてるだけなら、みんな単なるコスプレかな？
でも、犬化。始まつたら早いよね……急がないと……。
歩ける？ できれば走れる？
とりあえず人気のないところまで行こう」

つて思うはず。

「何か考えがあるの？」

〈主人公〉

「あると言えばある！ 大丈夫。私についてきて」

「わ、わかったわ！ あなたの言う通りにする！」

主人公、慌ててモニカを人気のないところへ連れて行く。

SE15..主人公とモニカが走る足音 【SE12と同じ音。】 12よりもスピードを速めて
長し、フェードアウトする

環境音と足音が次第に小さくなり、フェードアウトする。

8・浴衣で野外えつち

6から数分後。

主人公、モニカを人気のないところへ連れて行く。
場所は、お祭りをやっている神社の建物の裏。

二人は、建物の奥の、縁側のような、座れる場所に隠れている。
辺りには誰もいない。が、もし来たとしてもおかしくはない場所。
花火は遠くで聞こえる。

SE1：花火大会の環境音 【0～5秒ほどまで流してSE2。その後、一度フェードアウトするまで流し続ける。花火大会会場からは離れている印象にするため、ボリュームは小さめにする】

SE2：主人公とモニカの足音 【トラック7のSE10と同じ音。0～5秒ほどまで流して15のセリフ】

【なぜかこそ、小声で話す】

「ず、ずいぶん。人気（ひとけ）のないところね。こんなところまできて何をするつもり？」

駅はあつちよ？」

〈主人公〉

「モニカさん」

「ん？」

〈主人公〉

「状況を打破する手段はこれしかない。」「えつちしよう」

「え、ええーー!!」

〈主人公〉

「モニカの気持ちは非常にわかる。

私も自分で言っておいて、かなり『えーー!!』って思つてゐる」

「そりやそりや！ そんなの普通じゃないわよ。

【言いつらく、少し間が空く】

「いくら、人のいないところとはいへ。」

そ、外よ……？」

〈主人公〉

「まあまでは私の話を聞いてほしい。

私なりに、モニカの大化が止まる方法が具体的に何なのか考えたんだよ。

『えつちしたら治る』とはいって、それだけじや漠然としがれてるからね。

思えば初めてした時、私にしてくれてる時は、モニカの身体に変化なかつたけど。

私がしてあげて、モニカがイッちやつたら、あつさり耳は人間に戻つたよね。

つまりモニカが気持ちよくなれば……。

耳は引っ込んで人間モードに戻ると思うと私は考えている」

「冷静に分析しないで！ 恥ずかしいからあ！」

【小さな声で】によ話す】

「でもそうよね。いつも、私が気持ちよくなつたら、身体は元に戻るものね。だから、今日もそうすればいいわよね。

私もつ。そう思うけどお……だけど、だけどお……」

しばし沈黙。

〈主人公〉

「このままなんとか誤魔化して家に戻つて。

それからえつちするつて方法もあるけど。

ここから家までちよつとあるし……。

この辺で何とかするにしても、多分今日は、ホテルとかも混んでる。

いつ入れるかわからなくて、かえつて時間がかかるかもと思うと、ちよつと怖いよね……。

ていうか正直に言うと。

今日のモニカいつもに増して可愛いから。今すぐいちやいちやしたいといいますか……。だつて、何かあつて手遅れになつたら怖いし……」

【怒つてているようだが、本当は嬉しい】

はあー……ひょ 色々もつともらしい理由をつけておいて、本音はそれねつ？ 浴衣姿の私が可愛いから、我慢できなくなつちやつたつて訳ね…… もう！ もう！ 変態つ……

「……」

〈主人公〉

「その通りです……。

だつてモニカ、想像してた以上にその浴衣、似合うんだもん。
すぐ可愛い。今日お祭りに来てる人の中でダントツで一番可愛い。
人ごみの中でモニカだけ輝いて見える」

【本当は嬉しい】

もお。呆れたわ。バカな人……！

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

……でもね。我ながらバカだとは思うけど。
ちょっとと嬉しくなってる自分が嫌あ……。

だつて。本当はちょっと不安だつたの。今日の私、ちゃんと。できるのかなつて。
人間の女の子として、あなたとちゃんと歩けてるのかなつて……。

【泣きそうになる】

だから、今可愛いって言うなんて、ずるい……。

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

ねえ。あなた、ちゃんとわかつてる……？

私。あなたと恋人になれた今が、本当に幸せなの。
たとえあなたが。思つてたよりかなりえつちな人でもつ。

【話しながら、どんどんドキドキしてくる】

褒められたら飛び上がりそうな程嬉しいし。

い。一緒にいるだけで。こうやって手を繋いでるだけで……。
すぐぐドキドキつ、してるの！』

モニカ、主人公に抱きつぐ。

主人公の首に両手を回して、至近距離で話す。

SE3..モニカが主人公に抱きつく音【すべて流す】

「ばかあ。もうあなた、やだあつ。
でも好きい。

これじや。私の方がバカだわつ……。

【キスする】

ん♥
もお……。

こんなところでなんて……。本当に本当に変態！
絶対この身体、治してくれなきや嫌なんだから。
絶対気持ちよくしてくれなきや嫌なんだから……♥

【20秒ほどキスする。ゆっくりした、甘いキス】

ちゅ♥ んつ。ふつ……♥ あ♥ ん♥ ちゅつ♥ くちゅるつ……ちゅ♥ ちゅ♥ ん
うつ……ちゅつ♥ ちゅ♥ 「

〈主人公〉

「モニカ……可愛い……大好き……」

「また、そんなのずるいつ……。

あのねつ？ わかつてるつ？

私の方があなたより、絶対絶対大好きなんだから……！

【キスする】

ん♥

【10秒ほどキスする。濃厚なキス】

ちゅつ♥ ちゅぱつ♥ くちゅ♥ ちゅつ♥

【浴衣の中に手を入れられて、息をのむ】

はつ……♥ ひや�

あつ……♥

【主人公が手を引っ込めそうになつたので】

あつ……違うの……つ。やめてほしいんじやないの。

嫌じや、ないの……！」

モニカ、主人公の手を、自分の股間に導く。自分の股間を、浴衣越しに触らせる。

SE4..モニカが主人公の手を、自分の股間に導く音【すべて流す。『急に大きな音がした』という印象にならないように、ボリュームはかなり小さめにする】

【10秒ほど荒い呼吸】

はあ、はあ、はあ……♥

【勇気を出して言う】

あ、のね……？

私。あなたの事あれだけひどく言つておいて。

【声が震える】

ほんとは、この、中。

さつきからずつと。ぐちゅぐちゅに、なつちやつてるの……。

ほんとはすゞくつ。ドキドキ、してるので……！」

モニカ、自ら帯を解いて、浴衣を脱ぐ。

SE 5.. モニカが浴衣を脱ぐ音 【0~7秒ほどまで流して 149 のセリフ】

「あは……♥ 我ながら、どうかしてると思う、わ……。
自分からこんな事、しちやうなんて。誰か、来るかもしないのにつ……。
でもねつ？」

「私、あなたとだつたら、えつちすぎる思い出もほしい……。
初めてきた、夏祭りで。こんな恥ずかしい事しちやつた思い出すらつ、ほしい……つ♥」

【恥ずかしいので、主人公のせいにしたい】

「ねえつ。こんな全部。あなたがいけないのよ……？」

「あなたがいつも優しくて、甘えさせてくれて。いっぱい気持ちよくしてくれるからあ。
私犬だつた頃よりずっとあなたの事好きになつちやつたの。

「あなたとだつたら何でもしたいのつ……！」

【早口で、甘えた声で】

「だから触つて？ 私の事、気持ちよくして？」

「身体がどうとかもういいの。私今あなたに触つてほしいの。お願いつ」

SE 6.. 主人公がモニカの下着に手を入れる音 【トラック5のSE 12と同じ音。 6~9秒ほどまでを流す】

SE 7.. 主人公がモニカの股間を愛撫する音 【178まで繰り返し流し、セリフの内容によつて適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

※最初はボリュームは小さめ。0~1秒の最初の『くちゅ』のみ流して 178 まで一度止め、171 のセリフ。

【直接クリトリスを愛撫されて】

あ♥

〈主人公〉

「ほんとだ。すつゞく、ぐちやぐちや……」

【観念して認める】

「……でしょ？ 私も、あなたと同じ位。変態つて、事ね……。」

※まだボリュームは小さめ。続きを流し始める。1~2秒ごとの2回めの『くちゅ』を流してから181のセリフ。ここから先はSEを流し続ける。

【直接クリトリスを愛撫されて】

ああつ……♥ すゞいつ……気持ちいいつ。ふあつ……♥
えへ。お外で声出しちや、いけないのに、出ちやう……♥

【20秒ほど喘ぐ。押し殺そうとはするが、結局漏れてしまう】

ふああつ♥ ひやつ♥ んんつ……♥ あ♥ あ♥ あ♥ ん……ふり♥ はあ……はあ……

…あ♥

ああ、ああ、あ♥ んんつ……♥

※ここから少しボリュームが大きくなる。

ああ。気持ちいいつ……♥

※ボリュームは「187」と同じだが、ここから少しスピードが上がる。

【20秒ほど喘ぐ。次第に声が大きくなり、達してしまう】

んんう、くつ♥ ああ♥ あ、あ、つ、あ♥ きもちい、きもちいといつ……♥

【ここ】で達する】

ああああつ……♥ ※ここ】でSE7終わり

【10秒ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ……】

〈主人公〉

「モニカ……気持ちよかつた……？」

【しばらく間を空けてから】

うんつ……気持ちよかつたあ。

【少し間を空けてから。軽くキスする】

ちゅ♥ 好き♥】

しばらく、環境音のみが続く。その後、一度フェードアウトする。

SE8：外の環境音【花火大会はすでに終了。『虫がうるさい』という印象にならないように、ボリュームは小さめにする】

数十分後。主人公とモニカ、少し移動して別の場所におり、抱き合つたままボーッとしている。

気が付くと、花火大会は終わっている。

モニカ、自分が原因とはいえ、がっくりする。

「ああ。ろくに見ないうちに花火が終わってしまったわ……」

主人公、仕方のない事とはいえ、モニカに申し訳なくなる。
モニカの頭を撫で『とりあえず近所で他に花火大会ないか調べてみよう』と考えつつ、近日中に手ごろな花火大会があるかどうかはわからない。
ひとまず『来年も一緒に来よう』と励ます。

SE9…主人公がモニカの頭を撫でる音【トラック6のSE3などと同じ音。0~4秒ほどまでの2回分の『ぼん、ぼん』を流す】

〈主人公〉

「あはは……。今日は確かに残念だったけど。
また来年もあるよ。来年も一緒に来よう？」

【単純なので切り替えが早い】

……あ。そつか。そうよね！

【主人公から『来年』という言葉が出たのが嬉しい】

また来年、来ればいいわよね！えへへ

しかしモニカ『来年』という言葉が出た事で、とある事を思い出す。
昨日例の『お姉さん』から言われた話である。

【少し間を空けてから切り出す】

あのね……。今日はこんな事になっちゃったけど。昨日、例のお姉さんから連絡があつて。
もうすぐ私、身体が安定して、完全に人間になれるんですって」

〈主人公〉

「それはつまり……！」

「つまり。今日みたいな事はもう起きなくなるって訳」

モニカ、そうなれば主人公に迷惑をかける事はもうなくなるし、喜ばしいのはわかつているのだが、少し不安になる。

その必要がなくなつてしまつたら、主人公はもう自分とえっちしてくれなくなるのでは
……。と思つてしまふ。

〈主人公〉

「なんだ！ やつたね！ これで一安心だ！」

千二十九
といひしたの?
なんとか不安そんがいと

【不安そうに】

でも。あの……。ねえ。私が完全に人の身体になれても。
今日みたいに……またしてくれる？

あらわし

卷之三

当然だよ！ もうしないの。 そんたのいいやなんだけど！

モニカ、主人公の回答にホツとする。同時に主人公をつくづくスケベな人だと思うが、それは自分も同じなので『まあいいか』と思う。

一本当……？ よかつた

〔甘える〕

ね。ちゅーして?

ちゅ

それもそうである。あれだけ苦労して着た浴衣

「ちやんと着て帰れるかしら?」

主人公

【『やっぱりこの人忘れてた！』とあきれる】

『あつ』じやないわよう！ やつぱり何も考えてなかつたでしよう！

まあいいわ！ また二人で頑張って。
私の事。このお祭りで一番可愛い子にしてね！」

しばらく環境音。やがてフェードアウトする。

9・雨の日のお迎え

ある秋の雨の日。二十時ごろ。主人公宅の最寄り駅。

主人公、仕事を終え、フラフラと帰宅中。今日はひときわ仕事が辛い一日だった。しかし、頑張った分のリターンがあるわけでもない。

つまり、くたびれ損。

主人公『こんな仕事辞めてやる!』と思うが、辞めたらすぐ次のあてがあるわけでもない。つまり、我慢するしかない。主人公は悲しくなる。

主人公、うだつのあがらない自分がつらい。

せめて自分がもう少し偉くて、稼ぎがあつて、余裕のある生活ができれば、もつとモニカに樂をさせてあげられるのに……。と思うと泣きたくなつてくる。

しかし、しょんぼりと改札を抜けると、その先でモニカが傘を持って待つている。

SE1：駅の環境音【0～5秒ほど流してからSE2を流す。その後、二人が移動する63まで流し続ける】

SE2：主人公のゆっくりとした足音【0～5秒ほど流してからセリフ】

※声が遠い

「あ。みーつけた！」

〈主人公〉

「あれ！ モニカ……こんなところまでどうしたの？」

SE3：主人公がモニカの元へ駆け寄る音【SE2と同じ音。6～8秒ほどをスピードを上げて流す】

※声が近くなる

「心配だから迎えに来たの！
さつき電話した時。

【心配そうに】

何だか様子、変だつたから。

それから！」

SE4：モニカが主人公に、手にしている傘を見せる音【0～2秒ほどまで流す。『シユル、カサ……』という音で、手にしている傘を両手で持つて、主人公に見えるように振つているイメージ】

「今朝、傘持つていくの忘れてたでしょ？」

【傘を見せて得意げに】

フフフ。私の傘に入れてあげてもよくてよ。相合傘ね！」

【ドヤつている】

当然傘は私が持つわ

主人公、モニカの顔を見て、思わず泣きそうになる。

本当は今すぐ悩みを打ち明けて甘えたいが、自分はモニカよりもだいぶ年上だし、モニカを不安にさせたくないの、できない。

辛い気持ちを、いつものように笑つて、まかしてしまう。

〈主人公〉

「なんとありがたい！」

いや、でも気持ちは嬉しいんだけど。それは身長差的にちょっと厳しいのでは……？」

【得意げに】

「フン。身長差？ なんの！ そんなものに屈する私じゃないわ。

【明るく優しく】※聞いている側が、思わず温かい気分になるイメージです
さー、帰りましょ」

二人、駅を出て帰り道を並んで歩く。

【SE5】..主人公とモニカが歩き出す音 【SE2、3と同じ音。10~15秒ほどまで流して外へ】

※ここからSE1がフェードアウトする

ここで駅の外へ出る。

【SE6】..外の環境音。雨が降っている 【SE1に変わって音が大きくなり、0~3秒ほどまで流してからSE7。その後、二人が移動して室内に入るまで流し続ける】

【SE7】..モニカが傘を開く音 【すべて流す】

【SE8】..主人公とモニカが歩き出す音 【環境音に馴染む程度の小さなボリュームで、二人が移動し終わり、モニカが傘を閉じようと立ち止まる156まで流し続ける】

以降、雨の音と足音が聞こえる。しかし、雨にかき消されて足音はあまり聞こえない。
さらに二人、傘の中で話すので声がこもる。

【無理に背伸びする】

とりやつ！ ほらね。問題ないでしょ？

【早速ヨロヨロしている。そのため、言葉が変なところで切れる】

このまま、あ、な、た、を。おうちまで……エ、スコートして。差し上げる。わ

SE9:『ビュオオオオ！』と、強い風が吹く音 【すべて流す】

そこで、強い風が吹く。

モニカの持っている傘は風にあおられ、背伸びしているモニカは、それだけで転びそうになる。

【無理に背伸びしたので、それだけでよろめく】

あ、あつ、あ……。やめて風（かぜ）ちょっと。
いや、負け、負けないわ……】

SE10

『ビュウウウ！』と、さらに強い風が吹く音 【6～10秒ほどまで流してセリフ。その後、次のセリフと重ねながら最後まで流す】

【吹き飛ばされそうになる】

ああああーー！

モニカ、ここでようやく諦める。

【高くか細い声でコミカルに】

だめだわこれ。

【棒読みになる。ガツクリと観念している】

負けました。傘持つて下さい

主人公、思わず笑ってしまう。

いつも自分のために頑張ってくれるモニカが、たまらなくいとおしくなる。

〈主人公〉

「やっぱりね。ではやはり、私が傘を持ちましょう。

わざわざ迎えに来てくれただけで、私は十分嬉しいよ。無理しないで」

「ぐぬぬ……。『持つてきてくれただけで十分嬉しいよ』じゃないわよ！
ていうかあなた。もし私が迎えに来なかつたらどうするつもりだつたの？」

〈主人公〉

「えーっと……」

「どうせあなたのことだから。自分なら濡れても良いとか思つて。
ずっと濡れで帰つてくる気だつたんじやない？
私が同じ事したら、絶対怒る癖に」

〈主人公〉

「あはは……」

モニカ、主人公が否定しないので、自分の予想が当たつたと感じる。

モニカは、主人公がモニカの事ばかり優先し、自分自身の事は粗末に扱いがちなのが気に食わない。同時にそれを、とても心配している。

少し沈黙。

【※マークまで真面目に】

でもね。私最近わかつてきたの。

あなたは自分を大事にするのが下手だから。

辛くとも、笑つて誤魔化して。一人でボロボロになつて。倒れたり、しちやうから。

私。それがすごく嫌だつたけど……。※

【ここ】で声が明るくなる】

それなら私があなたの分まで、あなたを大切にすればいいんだつてわかつたの！
だから来た訳よ。これからはずつとこうだからね！ 観念なさい！

身体だつてね？ 今はこんなだけ。

まだまだ成長するわよ。そのうち百八十センチくらいになつたらどうする？
あなたの事なんか。

【『お姫様抱っこ』の『お姫様』の部分を強調する】

おーひーめーさーまー抱っこでー！

ヒヨイって運べるようになつちやうんだから！

あなたの体重が百キロ超えてたつて余裕よ。

その頃には筋肉もムキムキになつてゐるはずですものー！」

〈主人公〉

「ボディビルダーみたいになつたモニカかあ……。
それもいいけど、今までいいですよ？」

【ちよつと残念そうに】

え？ 今までいい？ 憧れるんだけど。筋肉。
……とか言ってたら着いたわ。

今家、駅近（えきちか）でいいわよね！」

SE11..モニカが傘を閉じる音 【すべて流す】

SE12..マンションの自動ドアが開く音 【すべて流す。冒頭の金属音のようなものが少
しうるさいので、ボリュームを小さめにする】

SE13..マンション廊下の環境音 【エレベーターに向かう過程で、次第に遠ざかる。ま
で流し続ける】

SE14..モニカと主人公が、マンションに入つていく足音 【0~2秒ほどまで流してS
E15..ここで一度止まる。その後SE16の後再開。3~8秒ほどまで流し、エレベータ
ーに乗るSE17でストップする】

SE15..マンションの扉が閉じる音 【すべて流す】

SE16..モニカがオートロックを開錠する音 【すべて流す。ボリュームは、元の音より
もかなり小さめにする】

【鼻歌を歌いながら開錠する】

ふんふん♪

SE17..モニカがエレベーターのボタンを押す音 【すべて流す】

SE18..エレベーターが到着する音 【すべて流す】

SE19..エレベーターの扉が開く音 【すべて流す】

SE20..エレベーターの扉が閉じる音 【すべて流す】

SE21..エレベーターの環境音 【0~10秒ほどまでこの環境音のみ流して、沈黙して
いる雰囲気を出したあと、188のセリフに入る。その後、214まで流す】

少し沈黙。エレベーターが動く音だけが聞こえる。

二人、マンションに入り、部屋に向かう。

エレベーターの中は一人きり。特に理由はないのだが、なんとなく、しばらく沈黙が続く。
と、そこで主人公が口を開く。

〈主人公〉

「モニカ……」

【心配して、優しく】

「うん? どうしたの?」

〈主人公〉

「私。頑張つても頑張つても、自分が人並みになれない気がする時がある。
今日もそうで……。自分がすごくダメな人間に思えて。
一体いつになれば、理想の自分になれるんだろうと思うと、気が遠くなつて……。
さつきまで、それがすごく辛いなつて思つてた」

「……そだつたのね。

何よ。やっぱり辛い事があつたんじやない。迎えに行つて正解だつたわ」

〈主人公〉

「わかっちゃいます?」

「わかるわよ。隠すだけ無駄よ。ばーか!
無理しない方がいいわよ。

人間も犬も、正直な方が生きてて楽しいに決まつてるわ。

辛い時はね。バンバン泣いていいのよ。でないと泣き方忘れちゃうわよ!

【真剣に】

「そのために、私がいるんだから!」

〈主人公〉

「モニカ……。ありがとう」

SE22：エレベーターが止まる音 【SE18と同じ音。すべて流す】

「あ。着いた」

SE23：エレベーターの扉が開く音 【SE19と同じ音。すべて流す】

SE24 .. 主人公とモニカの足音 【SE14と同じ音。0~2秒ほど流してSE25。SE25がやんできから、SE27まで、SE26と一緒に流す。その後、SE29の後、どの

部分でも構ないので2秒分ほど流してストップ】

SE25 .. エレベーターの扉が閉じる音 【SE20と同じ音。すべて流す】

SE26 .. マンション廊下の環境音 【0~10秒ほど流しSE27。その後、SE30まで流れたところでSE32に切り替わる。ボリュームは小さめにする】

主人公とモニカ、自分達の家にたどり着く。

SE27 .. モニカが鍵を取り出す音 【0~2秒ほど流し、SE28】

SE28 .. モニカが部屋の扉を開錠する音 【すべて流す】

SE29 .. モニカが部屋の扉を開ける音 【すべて流す】

SE30 .. モニカが部屋の扉をかける音 【すべて流す】

※入室後、数歩歩いてここでSE24がストップ。

SE31 .. 部屋の環境音 【トラック1のSE1などと同じ音。トラック終了まで流れ続ける】

SE32 .. モニカが靴を脱ぐ音 【すべて流す】

SE33 .. モニカが部屋の中に入していく足音 【トラック1のSE9と同じ音。0~4秒ほどまで流して、242のセリフ】

モニカ、先の家の中に入つていき、主人公の手を引く。

※少し声が遠い

「ほら！ お風呂沸かしてあるの。
一緒に入りましょう？」

〈主人公〉

「え？ 本当？」

主人公、モニカの気遣いが嬉しい。このままモニカに従うことにする。

SE34 .. 主人公が靴を脱ぐ音 【すべて流す】

SE35 .. 主人公の足音 【トラック3のSE9などと同じ音。5回繰り返して流す】

主人公とモニカ、脱衣所まで歩いていく。

主人公、早速服を脱ごうとするが、それをモニカが止める。
モニカ、主人公の服を脱がしながら話す。

SE37 ..モニカが主人公の服を脱がす音 【0～2秒ほどまで流し、259のセリフ。その後、セリフと重ねて最後まで流す。ボリュームは、セリフの邪魔にならないように小さめにする】

「ああ。あなたは立ってるだけでいいわよ。

服、脱がしてあげる♪

【少し間を空けてから。服を脱がしながら話す】

あのね。さつきの話だけど。

努力をしても、すぐに結果がついてこない事もあるわ。

本当はうまく行っていても……。成果が目に見えるまで、しばらく時間がかかる事もある。ほら。お給料だって、働いた日からしばらくしてからまとめてもらえるお仕事が多くて。すぐにいただけるお仕事は、ちょっと珍しいでしょ？

それと同じよ。

だけど、頭では理解できいてなお、それが苦しい。その気持ちもとてもわかる。

【少し悲しげに。声のトーンが下がる】

……私もそうだから。

【明るい声に戻る】

でも、いいじやない、みんなみたいに上手くできなくとも。

多数派からはみ出しちゃう、変わり者の人生でもいいじやない。

【真剣に】

あなたがこれからどんな事になつても、私はあなたの味方よ。何があつても。絶対あなたのそばにいる……。

【頬にキスする】

ちゅつー」

モニカ、主人公の服を脱がし終え、自分も裸になる。

主人公を浴室へ導く。

SE38 ..モニカが浴室の扉を開ける音 【0～5秒ほどまでの、1回目の『カラララララ』まで流す】

「ほら。いらっしゃい！ カモン！

モニカ様が慰めてあげるわ！」

9からそのまま続^き。

主人公、モニカの優しさが嬉しくて、浴室に入るなりモニカに抱きつく。

ここから浴室。声がエコーする。

SE1..浴室の環境音

主人公、モニカに抱きつく。

SE2..モニカが『おうとうと』とよろめく音【0~1秒ほどまでの『コ、ト』のみ流す】

【抱きつかれてよろめく】

わ、わ、わ!

【呆れているようだが声は優しい】

何よもう。そんなに甘えたかつたの? もう。しようのない人なんだからあ。

【後ろから主人公が顔を出し、頸を持ち上げられてキスされる】

ん……♥ ちゅ♥

【後ろから胸を触られる】

あ♥ ちょっとお。ひや♥ せつかち、すぎない……?

んもお……ま、いつか♥

【キスする】

ちゅ♥「

モニカ、うつかり雰囲気に流されかける。

しかしそう『雨で、寒くて、身体冷えてるのに、このままいちやいちやしてたら風邪ひかない』と気づく。

『うおりやー!』と、甘えてくる主人公を引きはがす。

【主人公を引きはがす】

いややっぱダメ!

ほら! まずはあつたまりましょ? 身体冷えてちやいけないわ!』

モニカ、主人公の身体を温めようと、シャワーかけからシャワーを外す。

「えいっ！」

SE3：モニカが蛇口をひねり、シャワーからお湯があふれる音 【頭の『ピツ』を消し、そこから5秒ほどまで流して49のセリフ。セリフが始まつた際に、声の邪魔にならないよう若干音量を落とす。その後、52までセリフと重ねて流す】

モニカ、主人公に向かつて、思いつきりシャワーをかける音

〈主人公〉
「ひやーー！」

【洗いながら話す】

フフフ！ あつたかいでしょ。

【優しく】

こうして……温かいお湯を浴びて、身体ほぐれたら。きっと気持ちも上向きになるわ。

※シャワーここで止まる

【モニカから顔を寄せて頬にキスする】

ちゅ♥

【優しく】

大丈夫よ。あなたは絶対大丈夫。今日は落ち込んでも、明日はきっと大丈夫】

SE4：モニカがお風呂椅子を持ち上げ、置く音 【すべて流す】

「よし！ はい椅子どうぞ。ここに座つて？」

〈主人公〉

「モニカ……。えつと……あの……」

SE5：主人公がお風呂椅子に座る音 【すべて流す】

【やる気満々で】

んー？ そうよ。このまま全部してあげる！ おとなしく♪奉仕されなさい！
ピッカピカにしてあげるわ。

まずはシャンプーかしら。あ。その前にお顔ね！
はい♥」

【SE6：モニカがプッシュ式のマイク落としのボトルをプッシュして、手につける音】
【0～4秒ほどまで流す】

主人公、まさか顔まで洗われるとは思わなかつた。
無理やり顔を持ち上げられ、洗われる形になる。

〈主人公〉

「おわーー！」

【SE7：モニカが主人公の顔をゴシゴシ洗う音】
【0～6秒ほどまで流し、83のセリフ。
その後セリフの邪魔にならないように95まで流す。元々のボリュームも小さめにする】

モニカ、されるがままの主人公が面白い。楽しくなつてしまふ。

「フフ、面白い顔●　目閉じてね？」

「……遅い時間まで働いて。

お化粧直す間もない位頑張つてると。

帰る頃には、身体ドロドロになつてるじゃない。

【優しく】

それだけで気分、落ち込むわよね。

【明るい声に戻る】

だから綺麗にしてあげる●

でもね私、実はちょっと汚くなつてるあなたも好きなの。

【優しく】

あなたがそれだけ、一生懸命生きてるつて証拠だと思うから……。
はーい、流すわよ●

【SE8：モニカが『キュツ』と蛇口をひねり、主人公にシャワーをかける音】
【0～20秒
ほどまで流し、違和感がないようにフェードアウトする】

〈主人公〉

「モニカさんめちゃくちゃですね!!」

【全く悪びれない】

えへ。次は身体洗つてあげる。
よおし待つてなさい」

モニカ、そう言いながら、なぜか自分の身体を洗つて、泡をつけ始めていく。

少し間。

んじよつとつ……。

あなたこれ、好きでしょ？

「…………死」

モニカ、自分の身体を使って主人公の身体を洗っていく。
主人公とモニカの身体が密着する。

SE9.. モニカが自分の身体を使って主人公を洗う音 【0~3秒ほど流してから 128 のセリフ。その後168まで、セリフに合わせて流す。詳細な指示はセリフ内に記載】

【得意げに】

ふふ♥ 気持ちいい?

あ、たがくてトヨトヨす。

柔らかくて、すべすべで！ 嬉しいでしょ ♡

【モニカから三回キスする】

ちゅ ♡ ちゅ ♡ ちゅつ ♡

……はあ。

二二二 一月 S.H.S.が再開できる

あとねテクニックもすごいから。
はあ、疲れたあなたを、完璧に。はあ……癒してあげる♥

はあ、はあ、はあ……。

えへ、ぬるごと/orするのいいでしょ?

【ゆつくり言う】

……ほら、見て。あなたのおっぱいも、私の。おっぱいも。泡だらけになつて。すりすべ
ぬるぬるしたまま……。」すれ合つてゐる。

【興奮してつばを飲み込む】

【本格的に興奮していく】

はあ、はあ、はあ……

えへ。気持ちいい？ 私も気持ちいい？

【乳首がこすれて、感じてしまう】

ん~~心~~ そうだ。背中はね。

はあ……はあ。

背中撫でられると、ホツとするわよね♥

あなたが、いつもして

【完全に興奮している】

【また乳首がこすれて、感じてしまう】

あつ
♥

【甘えた声で。完全に興奮している】

ねえ……」

※11)でS/E9が止まる

主人公

「何?
むずむずしてきちゃつた?
してあげようか?」

「ダメな……今田は私がするの。」
あんなに座っているのが。

【モニ力からキスする】

ん♥ちゅつ♥

すつぐ気持ちよくしてあげる……。

【20秒ほどキスする。積極的に濃厚なキス。一度唇を離して、さらに濃くキスする】

あ
ん
う
つ
あ
み
つ
あ
み

【10秒ほど荒い呼吸】

はあ、はあ、はあ……。
流す、わね♥」

SE10：シャワーからお湯があふれる音【0～3秒ほど流し、192-193のヤリフと重ねて流し、SE11】

モニカ、洗いながら話す。

【興奮して】

えく。シャンプー……濡れてた……。でも私もダメかも。止まんない。
すいばりいいやらしい気分になつてきちゃつた】

※ハリドのE10が止まる

SE11：モニカが蛇口をひねる音【3～5秒ほどまでの『キュツ』のみ流す】

【ゆくゆく】

ね。足、開いて、口で、してあげる……」

SE12：モニカが浴室の床に膝をつく音【SE11と同じ音。すべて流し、音は小さめにする】

モニカ、主人公の股間に顔をうずめて、主人公の股間を凝視する。

【かがんでいる状態。まだ舐めていない】
ん……♥

【主人公の股間が、がとても濡れているのに気づく】
わ♥

何よ……ぐちちよぐちよじやない♪

私知ってるわ。あなた、いつも私を『すぐ濡れちゃうな』ってからかうけど。
本当はあなたたつていつも同じ位ぬちよぬちよになつてゐて。

ねえい。せつかく洗つたのに。ハハだけすいばりくえつちな匂いがするわ?

【ぼそつと正直に告白する】

……でも私。実はこれも好き。

【笑顔で主人公を見上げる】

あなたのぬるぬる、しょっぱくて。癖になるの……♥

【一度だけ舐めて口を離す】

れろつ♥ はあ、はあ、はあ……
♥

だから
頂戴？

【20秒ほど、ちろちろ、優しく舐める】

ちゅ……れひい。ちゅぢる……ちゅう♥ ちゅぱい……れひい。ちゅうぢり……れひ♥

かか……おこしに ♥ めいじ……舐めさせて……」

モニカ、主人公をさらに愛撫するため、足を持ち上げる。

SE13…お風呂椅子が動く【カコン】という音

「【わざわとゆづくり言う】
ああ♥ こんなに高く足持ち上げられて ♥ 恥ずかしいといふ見られちゃってる気分はど
う?」

お風呂明るいから あなたのこゝかとくに濡れて♪♪♪
全部貰えやね♥
それでね? あなたの特に気持ちいいところは……れるい ♥ ハハ ♥
ちゅるつ……当たり。でしょ?

私ね。あなたの事全部知りたいの。だから、我慢しちゃやあよ？

【30秒ほど、音を立てて丹念に舐める】

ちゅ……ちゅはつ！ ちゅるちゅる……じゅるつ♥ じゅるる……ちゅはつ……
つ。ちゅるり……れろ♥ ぺろぺろ……ちゅるつ♥ ちゅぱつ、ちゅぱつ♥ 「
れろ

主人公

モニカつ……私、もう……つ」

【口をつけたまま話しているので、うまく声が出ない】

んふ？

イギリスの……

【わざと意地悪を言う】

優しくなる】

でも、いいわ♥ ジャ、足持つてあげるから♥ 好きな時にびくつてなつていいわよ♥

【30秒ほど、さつきよりも音を立てて、舐める。しつかり攻める】

へへへ……ちゅ♥ ちゅるる、ちゅる、じゅるる♥ じゅるる……れるる……♥ じゅる、

じゅる、ちゅぱり♥ ちゅる、ちゅるるり……れろ♥ ぴちゃり、ぴちゃり、ちゅる♥

【主人公がびくつと動いたので驚く】

んつ……♪

【ここで主人公が達する】

んんふり……!

【10秒ほど荒い呼吸】

はあ、はあ、はあ……♥

はあ、はあ……今、びっくりした♥

うふ。気持ちよかつた？ やつたあ♥

……私、ちゃんとあなたを気持ちよくできたのね♥

ちゅ♥ えへへ……♥

「

11・あしたのモニカ

※「明日」の読み方はすべて「あした」です。

10から十数分後。

主人公とモニカ、身体も髪も洗い終え、一緒に浴槽に入っている。

主人公が後ろからモニカを抱きしめるようにして入っている。

モニカ、主人公をたっぷり洗つて、満足げにしている。

SE1..浴室の環境音【0~5秒ほどまで流してからSE2。その後、トラック終了まで流し続ける。「ファンの音がうるさいな」と言う印象にならないように、音量小さめで流す】

SE2..モニカがお湯をいじる『ポチヤン』という音【すべて流す】

【満足げに】

はー気持ちいい。

犬の時はあんなんに嫌だったのに、人間になれた途端これって。

私の適応力って我ながらすごいわ!

【少し間を空けて】

あのね。私、人間になれた日からずっと。
これからどんな人になりたいか考えてた。
それで最近やつとわかったの。

【告白するような雰囲気で、真剣に】

……私はあなたが、安心して甘えられる人になりたいって。
あのね。まだ、ちょっと頼りないのはわかつてるけど!
これ位の事なら、いつでもしてあげるから。

これからちょっとでも苦しくなった時は! 即正直に言う事!

【フフンと得意げに】

ま。言わなくても……。私は見抜いちやうけどね!」

主人公、モニカの気遣いが嬉しい。

後ろから手を伸ばし、モニカの頭を撫でる。

SE3..主人公が、お湯の中で手を動かす『ポチヤン』という音【0~1秒ほどの、1回

〈主人公〉

「……ありがとう。一人じゃないって、いいね」

モニカ、主人公の言葉が嬉しい。
思わず『ぐるん！』と振り向く。

S E 4.. モニカが、お湯の中で勢いよく振り向く音 **【0～1秒目の、最初の『ボチャ』のみ流す】**

「そうよ！

これからあなた、一人になる事なんでもうないのよ！
だって私がずっとそばにいるんだもの！」

モニカ、主人公に伝えたいことがあるが、さすがに照れる。

少し間が空く。

【少し間を空けて。真面目に】

……あのね。私、生まれてきてよかつた。あの時生きるの、諦めなくてよかつた……。
今あなたといられる事が、本当に幸せだなって思う。
今はね。毎日。

今日を、明日を、これから的人生を……。
どんな風にしようかって考えるのが、すぐ楽しみなの！
ねえ。あの日、私に明日をくれてありがとう。
えへ。だーいすき！

ずっと絶対離れないわよ。だから……これからもずっと、よろしくね！」

S E 5.. モニカが、お湯の中で主人公に勢いよく抱きつく音 **【4～8秒ほどの、大きめの動き1回分のみを流す】**

モニカ、照れ隠しに主人公に思いつきり抱きつく。
主人公、驚くが、モニカをしつかり受け止める。

〈主人公〉

「もちろん！ こちらこそよろしく！」

「うふふ。よろしく♥

あのね。お風呂あがつたらおやつたくさんあるわよ！

アイスも、プリンも。チョコレートもあるから！

好きなだけ食べて、明日の元気を変えましょ？」

主人公、モニカの気持ちは嬉しいが『さすがに量が多いのでは？』と思う。モニカは何が何でも『デブモニカにはならない』と言っているが、この調子では、正直なところ心配である。

〈主人公〉

「食べすぎでは……？」

「いいの！ 今日は特別な日！
【モニカからキスする】

ちゅ
♥

よーしそろそろ……上がりましょうか♥」

SE6..モニカが浴槽から立ち上がる『ザバー』という音 【0~2秒ほどまでの、2回分の『チャパババ、チャバ』のみを流す】

〈主人公〉

「そうだね……今日くらいいいよね！」

モニカ、いつもありがとう。私もモニカの事、大好きだよ」

【とても幸せそうに】
ふふ♥

SE7..主人公が浴槽から立ち上がる『ザバー』という音 【SE6と同じ音。21~23秒ほどまでの、大きな動き1回分のみを流す】

SE8..主人公とモニカが、浴槽を出て、浴室を歩く『ヒタ、ヒタ』という音 【0~5秒ほどまで流す】

SE9..主人公とモニカが浴槽の扉を開ける音 【0~5秒ほどまで流してSE10。その後SE10がやんべから続きを流して、5秒ほど目の『バタン』で止める】

SE10..主人公とモニカが浴室を出る音 【SE8と同じ音。6~9秒ほどまで流して終わる】

しばらく環境音のみで、フェードアウトする。

（終わり）